SOTEC

WinBook WLシリーズ
ユーザーズガイド

（電源を入れる・切るなど基本的な操作から、各機能の使いかたを説明しています。）

付属マニュアルの読みかた

本で読むマニュアル

まず、これを読もう！

セットアップ方法から、本製品を使用するための基本的な操作方法を説明しています。
また、本機に接続できるさまざまな周辺機器の説明をしています。

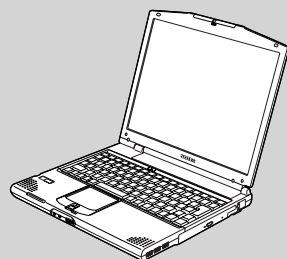
ユーザーズガイド

おかしいな？思ったら

本機をご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、トラブルの解決方法と、トラブルを予防する方法について説明しています。また、「SOTEC電子マニュアル」にもトラブルの解決方法および予防方法を説明しています。

サポートのご案内

サポートに関しては

カスタマーID登録・保証書のお申込書の方法や、修理依頼の方法などサポート内容について説明しています。

電子マニュアル（画面で見るマニュアル）

デスクトップ画面にある
[SOTEC電子マニュアル]アイコンを
ダブルクリック

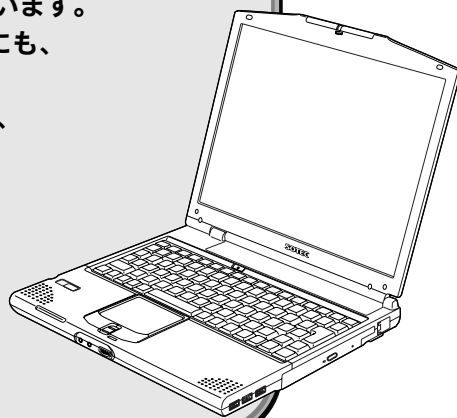
SOTECパソコンを使いこなそう！

SOTEC電子マニュアル

本機のマルチメディア機能の活用方法、およびWindows XPやインターネットの便利な使いかたを、図解つきでわかりやすく説明しています。本機の楽しみ方を探したいときなどに、ご参照ください。また、トラブルの解決方法および予防方法も説明しています。

はじめに

このたびは、ソーテックWinBook WLシリーズをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
このユーザーズガイドでは、WinBook WLシリーズのご使用にあたって注意していただきたいことや、基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を、6つのセクションに分けて説明しています。
WinBook WLシリーズを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。
読み終わった後は、いつでもご参照いただけるよう、大切に保管してください。

また、本製品をご使用になる前に、本書の2ページにある「本製品を正しく安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。本製品を正しく使用するために、知っておいていただきたい事項が記載されています。

チェック

はじめてWindowsを起動したときは、[スタート]ボタンを選択して表示される「本製品をご購入のお客様へ」を必ずお読みください。
この中には、WinBook WLシリーズを使用される上で重要な情報が記述されています。
特に、Windowsを再インストールする場合は、「本製品をご購入のお客様へ」に書かれているとおりにドライバソフトなどのインストールを行わないと、WinBook WLシリーズの性能を充分に発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

注 意

本製品は、人命に関わる設備や機器(医療機器、原子力設備に関連する機器、航空宇宙機器、運輸設備に関連する機器など)や、高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの使用や組み込みを目的として設計されていません。
これらの設備や機器、制御システムなどに本製品を使用された場合、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。

本製品を正しく安全にお使いいただくために

このユーザーズガイドでは、本製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(じゅうしょう)(※1)を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害(しょうがい)(※2)を負う可能性が想定される内容および、物的損害(ぶってきそんがい)(※3)のみの発生が想定される内容を示しています。

※1　重傷とは、入院や長期の通院を要する恐れのある怪我などを指します。
※2　傷害とは、入院や長期の通院を要しない怪我などを指します。
※3　物的損害とは、本機の損害および、家屋・家財・ペットなどに関わる二次的な損害を指します。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。

● 記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜いてください」という意味です。

⚠ 警告

水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

分解禁止

●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。
火災や感電の原因となります。
また、無償修理の対象外となります。

●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災・感電の原因となります。

●電源が100～240Vの範囲内であることを確認して使用してください。
100～240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。

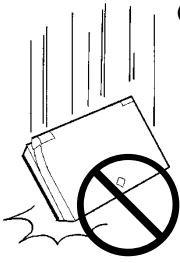
●長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。
（発熱することは異常ではありません。）

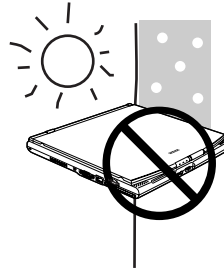
⚠ 注意

電源プラグを抜く

●電源プラグを抜くときはケーブルを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
故障の原因となります。

電源プラグを抜く

●使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電・火災の原因となります。

振動・衝撃を与えない

●振動や衝撃の加わる場所には設置しないでください。また、重い物をのせないでください。
故障による火災・感電の原因となります。

●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐食性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10～35℃)/使用周囲湿度(20～80%ただし結露しないこと)を超える範囲では使用・保存しないでください。故障の原因となります。

異物を挟んで閉じない

●ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうかご確認ください。異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

●タッチパッドの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。
故障の原因となります。

●タッチパッドは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

●本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。

●電源ケーブルの上にものをのせないでください。
電源ケーブルが痛むと漏電・火災の原因となります。

●雷が近いときは、すみやかに電源をOFFにし、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
また、モジュラーケーブルやLANケーブルなど、接続されているケーブル類も抜いてください。
故障する可能性があります。

⚠ 警告

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。
また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。発熱・発火・破裂の原因になります。

●バッテリを火の中に入れないでください。破裂の恐れがあります。

●バッテリに強い衝撃を与えないでください。
故障の原因となります。

●バッテリから液が漏れて、液が目に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

●バッテリ充電時に、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。

●バッテリが漏液したり、異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂の恐れがあります。

●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれています。分解・改造などしないでください。
保護装置が壊れ、発熱・発火・破裂の恐れがあります。

⚠ 注意

●バッテリから漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗ってください。

●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(＋と－の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

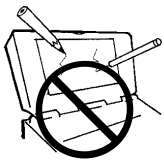
⚠注意

●バッテリを、水や海水などにつけて、濡らさないでください。バッテリの破損や性能・寿命を低下させる原因となります。

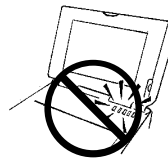
●バッテリを使う前に、サビ・異臭・発熱・その他異常と思われるときは、使用しないでください。SOTECテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●バッテリを小児が使う場合、保護者が取扱説明書の内容を教えてください。また、使用途中でも、取扱説明書のとおり使用しているかご確認ください。

●バッテリは乳幼児の手の届かない所へ保管してください。

⚠取り扱い上の注意

たたいたり
引っかいたりしない

●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。
破損する恐れがあります。

●本体外装の汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

動作中に
移動させない

●ハードディスクが動作中のときは移動させないでください。
故障の原因となります。

●本製品の付属物は大切に保存してください。

●ハードディスクに保存したデータなどは定期的にバックアップをお取りください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10～35℃)の環境に放置した後、お使いください。

法規について

レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802)クラス1適合の光ディスクドライブが搭載されています。

PCグリーンラベル制度について

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)により策定された「PCグリーンラベル制度」に合格致しました。

「PCグリーンラベル制度」とは、お客様が環境に配慮したパソコンをご購入になる際、商品選択を容易にするために、基準をクリアしたパソコンに「PCグリーンラベルロゴマーク」を表示する制度で、以下の3つのコンセプトから構成されています。

・環境(含3R※1)に配慮した設計・製造がなされている
・使用済み後も、引取り・リユース/リサイクル・適正処理がなされている
・環境に関する適切な情報開示がなされている

※1:3R=リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)

グリーン購入ネットワーク(GPN)について

本製品はグリーン購入ネットワーク(GPN)に適合しています。

輸出および海外でのご使用に関する注意事項

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要になる場合があります。

必要な許可を取得せずに本製品を輸出すると、同法により罰せられます。

輸出の許可の要否については、ご購入頂いた販売店、または当社営業拠点にお問い合わせください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報処理装置です。

この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しく取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとした、オフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
(社団法人電子情報技術産業協会(旧JEIDA)のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

マニュアルの読みかた

ページの構成

7
ログオン/ログオフする

本製品を複数の人間で利用するとき、ログオン/ログオフ作業が必要です。
ログオンすることで、各自の使用環境を切り分けて本製品を使えます。

ログオンする

Windows起動時にログオンするユーザを選択することで、対応する使用環境を割り当てます。

1 **パソコンの電源をONにします。**

しばらくするとユーザの選択画面が表示されます。

2 **ログオンするユーザを選択します。パスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。**

メモ パスワードが拒否された場合は、大文字と小文字を間違って入力していないか再度ご確認ください。Windows XP では、Tarouとtarouは違う文字列として判別されます。

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

チェック パスワードを設定する場合、入力したパスワードはメモをとるなどして、忘れないようにしてください。

※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

STEP1 セットアップをはじめよう

SOTEC「電子マニュアル」参照
省電力機能
メニュー＞ユーザーズガイドのTips＞省電力機能

31

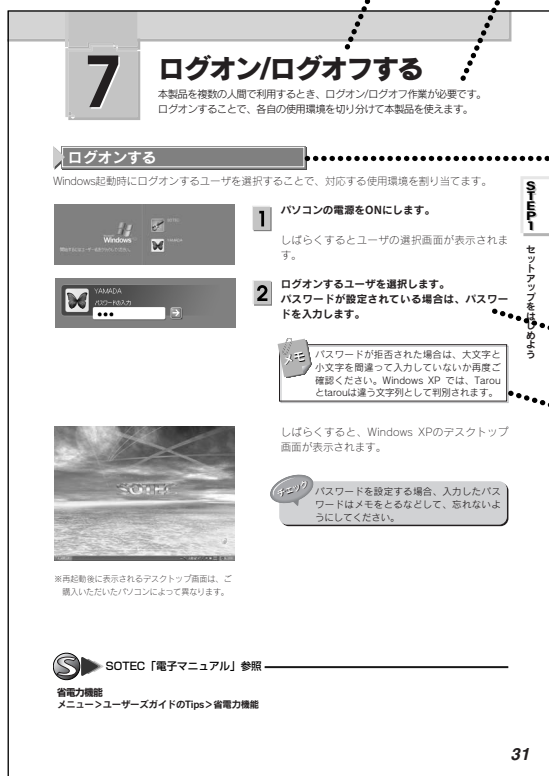
大見出し

この項目の概要

中見出し

インデックス
各章ごとに区切られています。

操作手順

アイコン

このページは、構成の説明用に作成したもので、実際のページとは異なります。

メモ 補足的な説明や、知っておくと便利なポイントです。

チェック 操作してはいけないこと、または操作するときに注意するポイントです。

注　意

特に注意していただきたいことです。説明を守らないと、本機の破損や怪我をする可能性があります。

参照していただきたい電子マニュアル(画面で見るマニュアル)の項目を紹介しています。

参照していただきたい別冊のマニュアルやオンラインヘルプを紹介しています。

☞参照ページ

その単語の詳細が別ページに紹介、または説明されています。本文とあわせてご参照ください。

章の構成

このユーザーズガイドは、お客様のレベルや使いかたに応じて、大きく6つのセクションに分けて説明しています。

本製品の接続方法と、セットアップから電源のON、OFFまでを説明しています。

セットアップをはじめよう

タッチパッドや光ディスクドライブなど、WinBookが標準で持っている機能について、基本的な使いかたおよび注意事項を説明しています。

ご使用になる前に

AV機器やUSB機器など、WinBookに接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。

周辺機器を使いこなす

WinBookの使用中に、トラブルが発生したり、疑問に感じたりしたことがあれば、あわてずにこの項目をご参照ください。

困ったときには・・・

WinBookをご購入時の状態に戻す(リカバリー)方法や、リカバリー前に行うデータや設定のバックアップについて説明しています。

パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリー)

WinBookの内部プログラム(BIOS)の操作方法と、その機能について説明しています。また、索引を掲載しています。必要に応じてご参照ください。

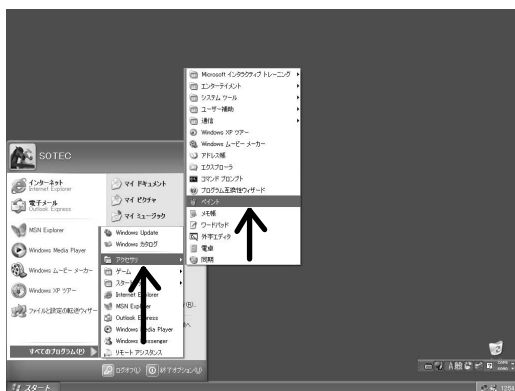
付　録

WinBookを使うのは初めて、という方は、「STEP1 セットアップをはじめよう」をまずお読みください。接続方法からセットアップ、本機の電源の入れかたなど、基本的な使いかたを説明しています。また、タッチパッドや光ディスクドライブなど、WinBookに標準で付属している機能を使用する場合は、「STEP2 ご使用になる前に」をお読みください。

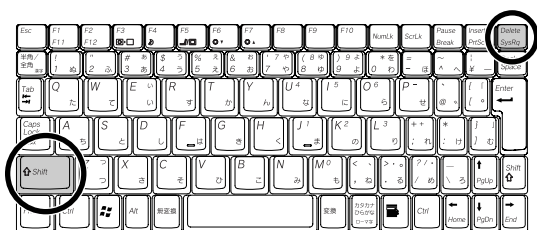
USB対応のスキャナを使いたい、メモリを増設したいなど、本製品をより有効に活用したいときは、「STEP3 周辺機器を使いこなす」をお読みください。

使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「STEP4 困ったときには…」「STEP5 パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリー)」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなるでしょう。

マニュアルの表記について

操作の表記ルール

次々とメニューを選択していく動作を本書では「→」を使って省略している箇所があります。
例えば、左画面のように、スタートボタンから「ペイント」のプログラムまでを選択する動作を、

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[ペイント]

と表記しています。

※製品によりキーボードの形状は異なることがあります。

何かのキーを押しながら、他のキーを押す動作を本書では「+」を使って省略しています。
例えば、左図のように、Shift（シフト）キーを押しながら、Delete（デリート）キーを押す動作を、

Shift + Delete

と表記しています。

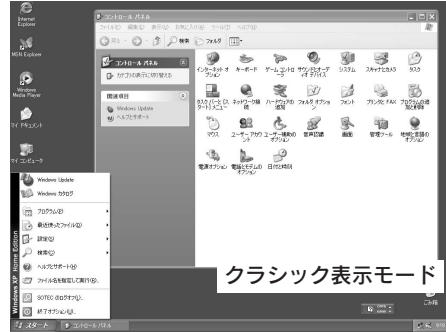
また、キーボード上の絵は、次のように簡略化して表記しています。

キー表記とキーボードの対応表

本書の表記	実際のキー	本書の表記	実際のキー	本書の表記	実際のキー
Esc	Esc	BackSpace	Back Space	PageDown	PgDn
Tab	Tab	Insert	Insert PrtScr	F1 F2…	F1 F11 / F2 F12
Ctrl	Ctrl	Delete	Delete SysRq	変換	変換
Shift	Shift	Home	Home	半角/全角	半角/全角 漢字
Alt	Alt	End	End	NumLk	NumLk
Space		↑ ↓ ← →	PgUp PgDn Home End		
Enter	Enter	PageUp	PgUp		

Windows XPの表記ルール

カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

Windows XPには、カテゴリ表示モードと呼ばれる通常の表示方法と、Windows2000など従来の表示イメージにあわせたクラシック表示モードと呼ばれる表示方法があります。本書では、カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

Windows XP Home Editionの画面で説明しています。

Windows XPには、Windows XP ProfessionalとWindows XP Home Editionの2種類のバージョンがあります。本書では、Windows XP Home Editionの画面で説明しています。

Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

本書では、Microsoft Windows XP Professional日本語版およびMicrosoft Windows XP Home Edition 日本語版を、Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

モデル名の表記ルール

本製品に付属の製品仕様書から、マニュアルで表記しているモデル名をご確認ください。

●OSの区別による表記

XP Homeモデル

Windows XP Home Edition をインストールしてるモデル

XP Proモデル

Windows XP Professional をインストールしているモデル

- 本書中の画面・イラストはモデル、ご使用の環境により実際のものと異なる場合がございます。
- 記載しておりますホームページの内容やアドレス、お問い合わせ番号は、本書制作時点のものであり、変更する場合がございます。

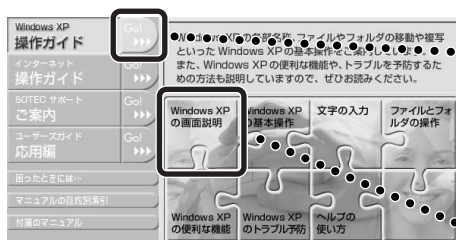
「SOTEC電子マニュアル」について

SOTEC電子マニュアルは、本機のマルチメディア機能の活用方法、およびWindows XPやインターネットの便利な使いかたを、図解つきでわかりやすく紹介しています。

SOTEC電子マニュアルの起動方法

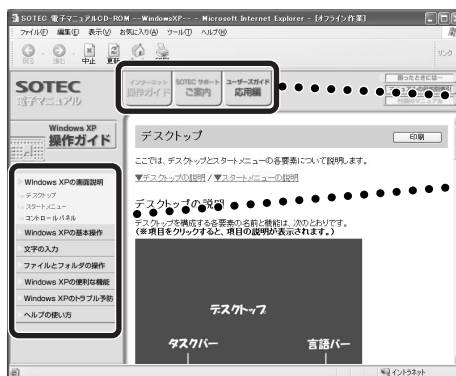
SOTEC電子マニュアルはデスクトップ画面から簡単に起動できます。

1 **デスクトップ画面のアイコンをダブルクリックします。**

メニューが表示されます。

2 **目的に応じたメニュータイトル右横の「Go!」をクリックします。**

サブメニューが表示されます。

3 **サブメニューの中からタイトルをクリックします。**

目的のコンテンツが表示されます。

クリックすると、他のメニューに移動できます。

クリックすると、他の情報に移動できます。

動作環境

SOTEC電子マニュアルは以下の動作環境でのみ使用できます。

O　S	ブラウザ
Windows XP Home Edition Widows XP Professional	Internet Explorer 6.0以降 (※1)

※1：JavaScriptおよびActive Xは無効にしないでください。

注意事項

・SOTEC電子マニュアルは、株式会社ソーテックの著作物です。
・SOTEC電子マニュアルは予告なしに変更される場合があります。また、SOTEC電子マニュアルを運用した結果については、一切の責任を負わないものとします。
・SOTEC電子マニュアルで紹介されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。
・SOTEC電子マニュアルは、著作権法によって保護されています。一部または全部を無断で複製、転載、改変、カスタマイズ、頒布することを禁じます。特にSOTEC電子マニュアルを編集および改変してご利用になると、本製品の誤使用の原因となる恐れがあります。

目　次

STEP1 セットアップをはじめよう

STEP2 ご使用になる前に

STEP3 周辺機器を使いこなす

STEP4 困ったときには・・・

STEP5 パソコンを購入時の状態に戻す（リカバリー）

付録

STEP 1

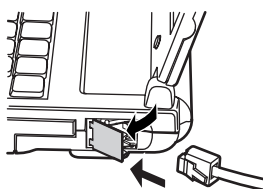
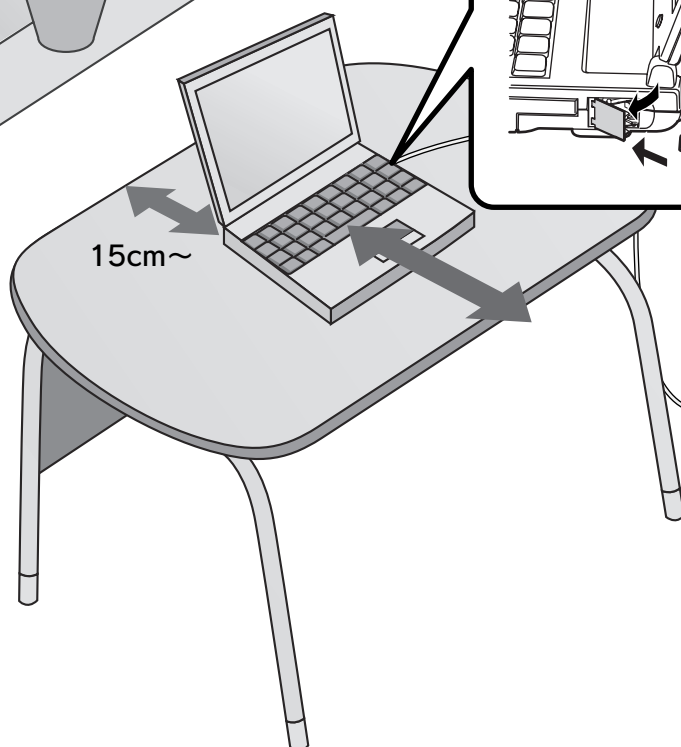
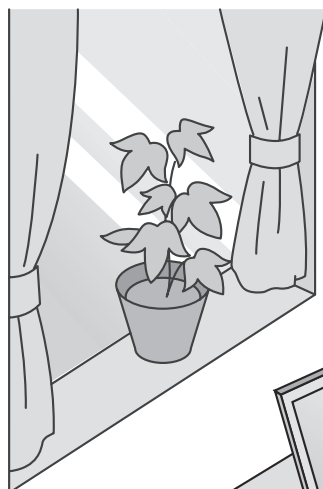
セットアップをはじめよう

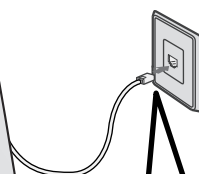
本製品の接続方法と、セットアップから電源のON、OFFまでを説明しています。
これから本製品を使うための準備をします。必ずお読みください。

置き場所を決める

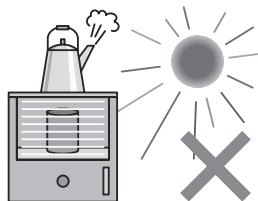
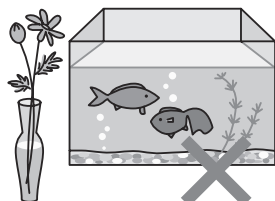
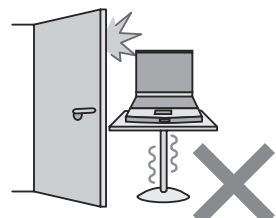
WinBookが手元に届いたら、まず、設置場所を決めてください。

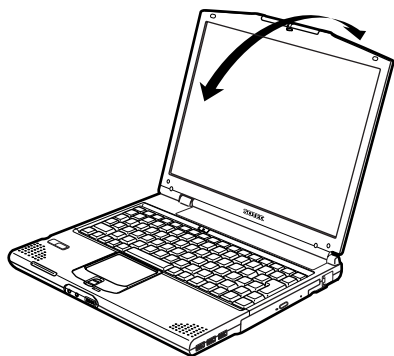
1 パソコンの後ろは、排気口から熱が排出できるよう、15cm以上開けてください。

2 パソコンの前は、キーボードやタッチパッドが操作しやすいようにゆとりをもってください。

電話回線を利用してインターネットを利用する場合は､「カチッ」と音がするまで､モジュラーケーブルのプラグをFAX/モデムポートに差し込んでください。

15cm〜

電話回線を使用してインターネットを利用する場合は､電話回線コンセントが近くにある場所を選んでください。

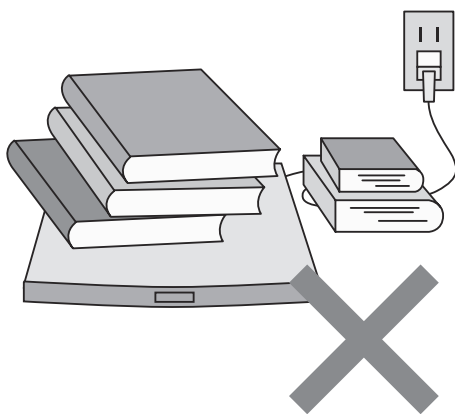
置いてはいけない場所

直射日光のあたる場所、ストーブなど熱源の近く。

水がかかりそうな場所。

不安定な場所、物がぶつかりそうな場所。

●ディスプレイの角度調整について

ディスプレイは、見やすい角度に調整できます。

●正しい姿勢について

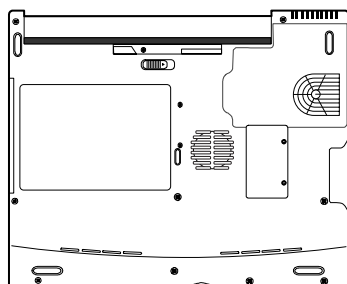
次のように正しい姿勢で、パソコンの前に座ってください。

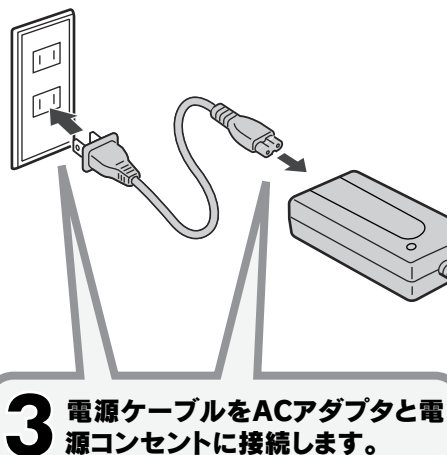
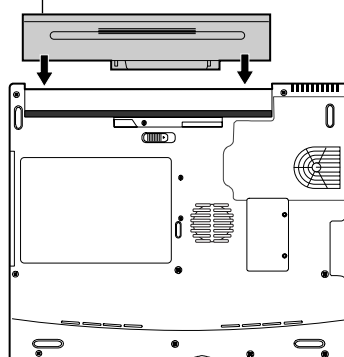
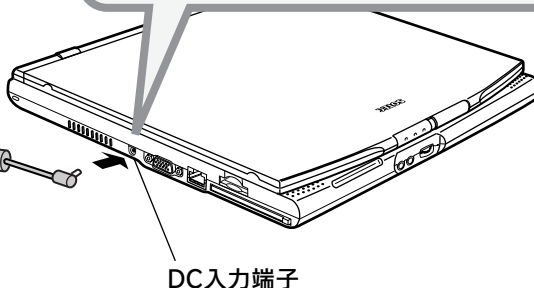
●管理について

本体および電源ケーブルの上に重いものをのせたり、通風孔を塞いだりしないでください。

2 接続する

必要な機器を接続しましょう。
スキャナやプリンタなど、すでに周辺機器をお持ちの場合でも、Windows XPセットアップが終了するまでは接続しないでください。

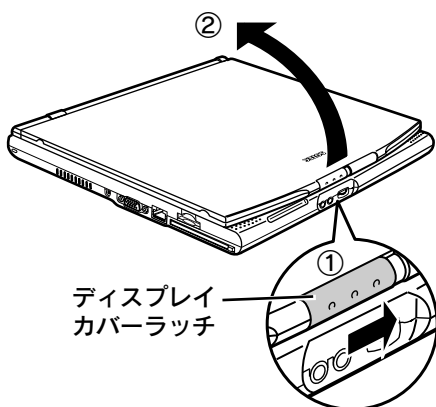
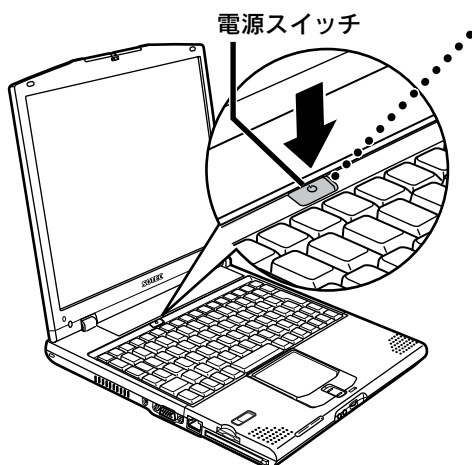
1 バッテリパックを取り付けます。

1 ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。

2 バッテリパックを矢印の方向に動かしながら取り付けます。

バッテリパック

3 セットアップをはじめる

パソコンに自分の名前などを登録して、パソコンを使える状態にする作業のことを、「セットアップ」といいます。セットアップが終わると、さまざまなソフトウェアが使えるようになります。

セットアップはあわてずに！
セットアップ作業中の画面の切り換えには、少し時間がかかることがあります。
これは、パソコン内部でいろいろな設定が処理されているためです。「しばらくお待ちください」といったメッセージが表示されたり、マウスカーソル(マウスポインタ)の矢印が ⌛ (砂時計)になっているときは、キーボードのキーを押したり、タッチパッドのボタンを何度も押さないでください。

セットアップの準備をする

1 **手前のディスプレイカバーラッチを右へスライドして(①)、見やすい角度までディスプレイカバーを開きます(②)。**

2 **電源スイッチを押します。**

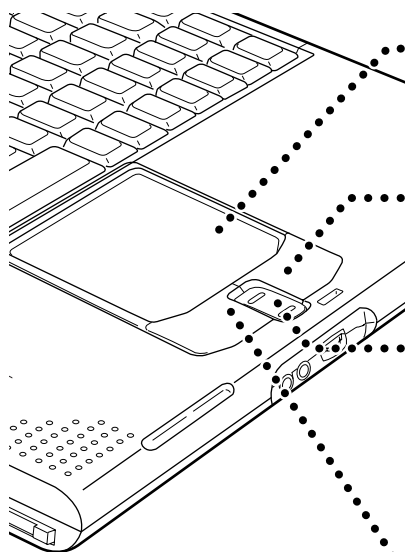
パソコンの電源をONにしてから、しばらくの間は、画面の表示がいろいろ変化します。手順3の画面が表示されるまで、お待ちください。

操作の途中で電源を切らない！
セットアップ作業には、少し時間がかかります。
セットアップの作業中は、絶対にパソコンの電源を切らないでください。セットアップが終わる前に電源を切ると、故障の原因になります。

3 **[次へ]ボタンにタッチパッドの矢印を合わせて、左クリックします。**

分からないことがあったら・・・
Windows XPのセットアップの途中で分からないことがあれば、ヘルプで調べることができます。?をクリックするかF1キーを押すとヘルプを参照できます。

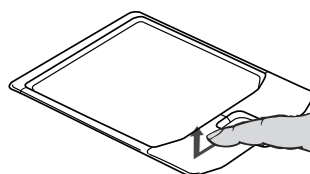
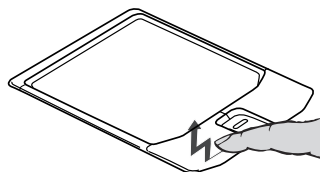
タッチパッドの使いかた

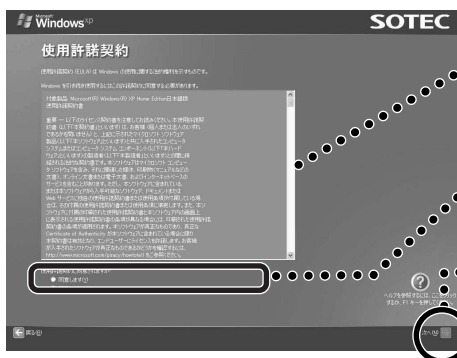
ここではタッチパッドを一度も使ったことがない方を対象として、次の手順に入る前に、タッチパッドの名前と機能を簡単に説明します。

タッチパッド
タッチパッドの上を、矢印を移動させたい方向にあわせて、指でなぞります。

右ボタン
右クリックするときに1回押します。
マウスの右ボタンと同じ働きをします。

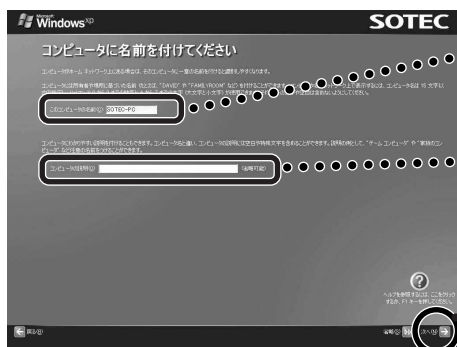
スクロールボタン
画面を上下スクロールするときに、このスクロールボタンを押します。
セットアップでは、スクロールボタンは使用しません。

左ボタン
左クリックするときに1回押します。
マウスの左ボタンと同じ働きをします。

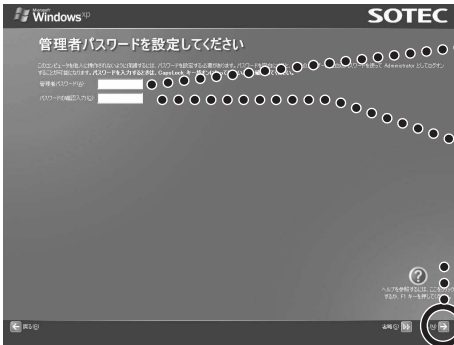
クリック
画面の文字やアイコンなどにタッチパッドの矢印を合わせ、ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。
クリックは、Windowsを操作するときの最も基本的な動作です。

ダブルクリック
画面の文字やアイコンなどにタッチパッドの矢印を合わせ、タッチパッドのボタンを素早く2回押す操作を「ダブルクリック」といいます。セットアップ終了後、アプリケーションを起動するときなどに使います。

使用許諾契約書に同意する

使用許諾契約書に同意します。
同意しないと、Windows XPを使用することができません。

1. 使用許諾契約書を確認します。
2. 同意したら、[同意します]の○を左クリックして、◉に変えます。
3. [次へ]ボタンを左クリックします。

本機を設定する

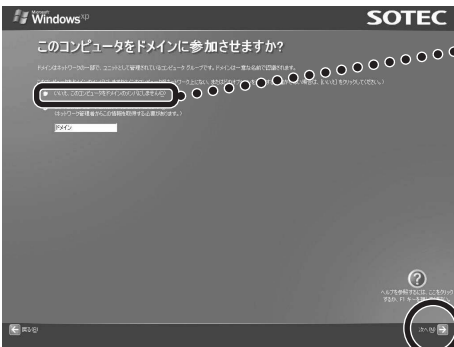
コンピュータに名前をつけます。ここでは例として、「SOTEC-PC」と入力します。

1. キーボードから、S O T E C - P C の順にキーを押します。
2. 任意でコンピュータの説明を入力します。省略してもかまいません。
3. [次へ]ボタンを左クリックします。

XP Proモデルの方は ············ 4 へ進む

XP Homeモデルの方は ·········· 9 へ進む

4 「管理者パスワード」の欄に、任意でパスワードを入力します。

5 「パスワードの確認入力」の欄に「管理者パスワード」と同じパスワードを入力します。

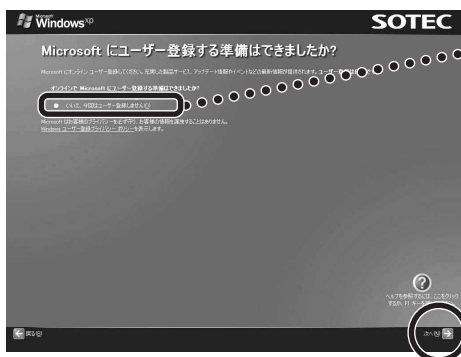
6 [次へ]ボタンを左クリックします。

管理者パスワードとは
「管理者パスワード」とは、本機の設定を管理する人のためのパスワードです。ここで設定したパスワードは絶対忘れないようにしてください。パスワードを忘れてしまうとWindows XPの再インストール(リカバリー)が必要になります。(☞ 90ページ)

7 「いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません」にチェックを入れます。

ドメインの設定は、セットアップ終了後に行うことをお勧めします。

8 [次へ]ボタンを左クリックします。

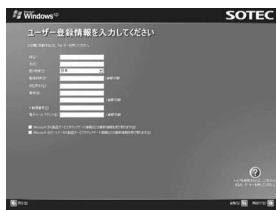
9 [省略]ボタンを左クリックします。

インターネットへの接続設定は、セットアップ終了後に行うことをお勧めします。

ここでは、「いいえ、今回はユーザー登録しません」にチェックを入れます。

チェック

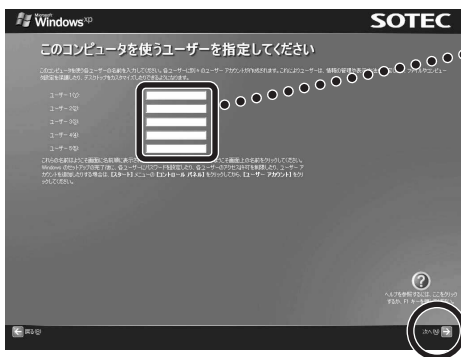
オンラインでのユーザー登録は、事前にインターネット接続を設定する必要があります。また、ユーザー登録は、セットアップ後でも行えます。

11 **[次へ]ボタンを左クリックします。**

メモ

ここでオンライン登録する必要はありません

オンライン登録は、セットアップ終了後に行うことをお勧めします。このマニュアルでは、オンライン登録するための、インターネットの設定方法を説明していません。左のような画面が表示されてしまった場合は、[戻る]ボタンを左クリックして１つ前の画面に戻ってください。

ユーザー名を登録する

本機を使用するユーザーのユーザー名を入力します。

各ユーザー名を任意で入力します。

チェック

・ユーザー名は最低1つ以上入力してください。
・複数のユーザーで使用する場合、ユーザー名が同じにならないようにしてください。

メモ

セットアップ終了後でも、「コントロールパネル」の「ユーザーアカウント」からユーザーを追加することができます。

2 **[次へ]ボタンを左クリックします。**

セットアップを完了する

いよいよセットアップの完了です。

[完了]ボタンを左クリックします。

クリックした後、本機は自動的に再起動します。

再起動中は、画面の表示がいろいろ変化しますが、パソコンの異常ではありません。絶対に電源を切らないでください。

※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

再起動が終了して、左の画面が出てきたら、セットアップは完了です。いよいよインターネット、メール、オーディオ、ゲームなどが使えるようになります。

4 電源を切る

セットアップが終了したら、電源をOFFにしましょう。

1 **[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。**

チェック

いきなり電源スイッチを押して電源をOFFにする動作を繰り返すと、Windows XPのシステムが壊れて、Windows XPの再インストールが必要になることがあります。電源をOFFにするときは正しい手順で操作してください。

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。

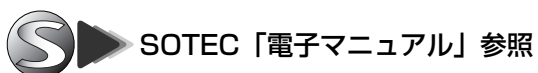
2 **[電源を切る]をクリックします。**

キーボードを使ってWindowsを終了するには

⊞キーを押し、Uキーで[終了オプション]を選択します。【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されたら、再度Uキーを押します。

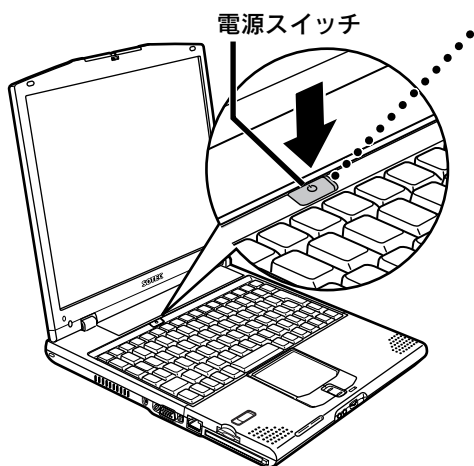
自動的に本体の電源がOFFになります。

3 **必要に応じて周辺機器の電源をOFFにします。**

SOTEC「電子マニュアル」参照

省電力機能
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞省電力機能

5 2回目以降に電源を入れたときは

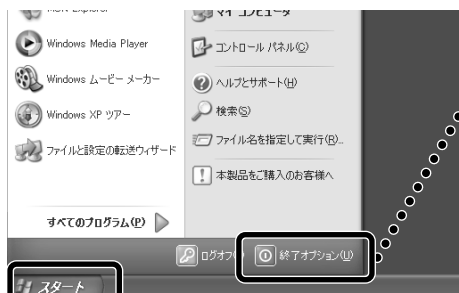
Windows XPセットアップが終了すれば、次に電源をONにしたとき、そのままWindows XPのデスクトップ画面が表示されます。

1 **電源スイッチを押します。**

※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

2 **しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。**

リカバリCD-ROMを光ディスクドライブに入れたままパソコンの電源をONにすると、リカバリの開始画面が表示されてしまいます。その場合、画面の指示に従い、再インストールを中断した後、リカバリCD-ROMを取り出してから再起動してください。

電源を切らずに再起動する

デバイスドライバのインストールが終了した後や、Windowsの動作が不安定(画面が乱れたり、画面が動かない)になったときは、次の手順で、Windowsを再起動させます。

1 **[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。**

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。

2 **[再起動]をクリックします。**

アプリケーションソフトの操作中に、マウスカーソルが動かなくなってしまったときなど、操作が続けられないときは、Ctrl＋Alt＋Deleteキーを同時に押すことで、特定のアプリケーションソフトを終了させることができます。

7 ログオン/ログオフする

本製品を複数の人間で利用するとき、ログオン/ログオフ作業が必要です。
ログオンすることで、各自の使用環境を切り分けて本製品を使えます。

ログオンする

Windows起動時にログオンするユーザを選択することで、対応する使用環境を割り当てます。

1 パソコンの電源をONにします。

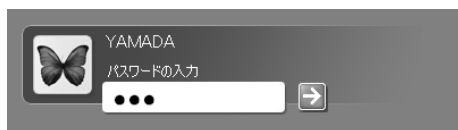
しばらくするとユーザの選択画面が表示されます。

2 ログオンするユーザを選択します。
パスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。

メモ　パスワードが拒否された場合は、大文字と小文字を間違って入力していないか再度ご確認ください。Windows XP では、Tarouとtarouは違う文字列として判別されます。

※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

チェック　パスワードを設定する場合、入力したパスワードはメモをとるなどして、忘れないようにしてください。

ログオフする

本製品起動時にログオンしたユーザを、ログオフします。
ログオフすることで、今まで使用していたユーザに割り当てられていた使用環境が無効になります。

1 **[スタート]ボタン→[ログオフ]を選択します。**

【Windowsのログオフ】ダイアログが表示されます。

2 **[ログオフ]を選択します。**

現在選択されているユーザがログオフされます。

ユーザーの切り替え

「ログオフ/ログオン」機能では、ユーザが本機にログインする前に、それまで使用していたユーザがログオフしなければばなりませんでした。
それに対して、「ユーザーの切り替え」機能は、同時に複数のユーザーが本機にログオンできます。ユーザを切り替えることで、複数のユーザがログインしていても使用環境を使い分けることができます。

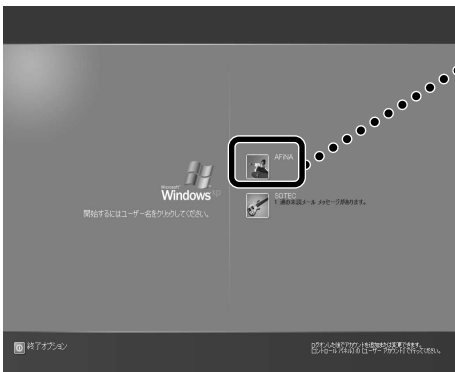
1 **[スタート]ボタン→[ログオフ]を選択します。**

【Windowsのログオフ】ダイアログが表示されます。

2 **[ユーザーの切り替え]ボタンをクリックします。**

今まで使用していたユーザーアカウントがWindows XPよりログオフされ、ログオン画面が表示されます。

3 **新しく使用するユーザーアカウントを選択します。**

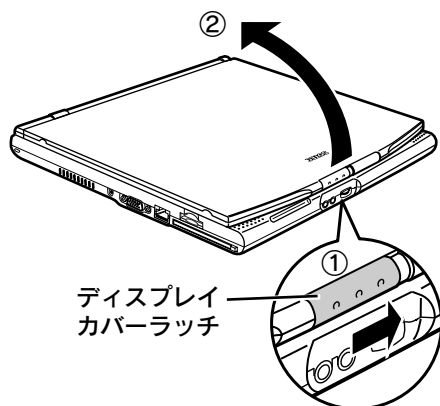
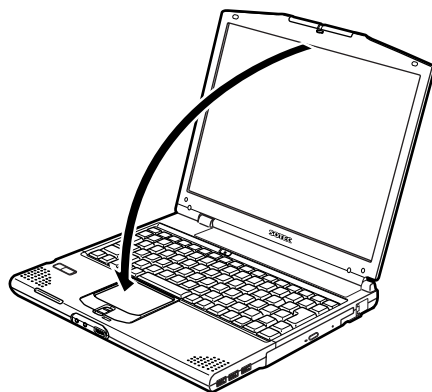
新たなユーザーアカウントでWindows XPにログオンしました。
以上でユーザーの切り替えは終了です。

STEP 2

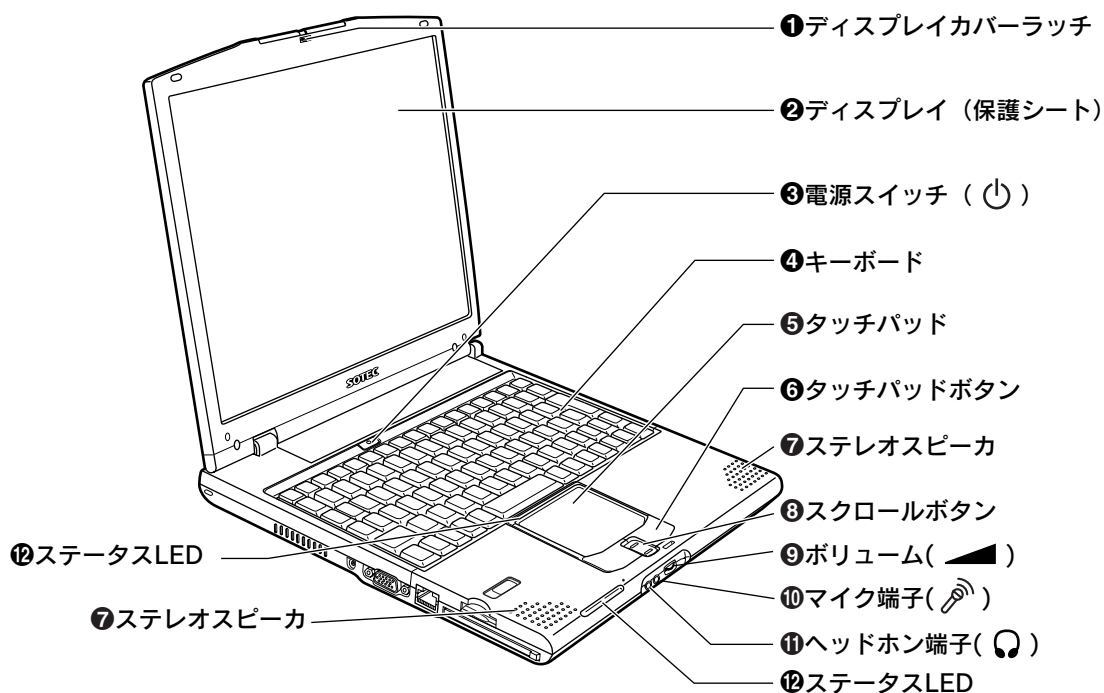
ご使用になる前に

本製品各部の名前と機能の説明、タッチパッドや光ディスクドライブなど、本製品の基本的な操作方法を説明しています。必ずお読みください。

1 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明しています。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページも合わせてお読みください。

ディスプレイカバーの開け閉め

ディスプレイカバーを開けるときは、ディスプレイカバーラッチを右へスライドして(①)、ロックを解除し、見やすい角度まで開きます(②)。

ディスプレイカバーを閉じるときは、ディスプレイカバーから「カチッ」と音がするまで手前に倒して、ディスプレイカバーラッチがロックするようにします。

前　面

❶ ディスプレイカバーラッチ
右へスライドさせてディスプレイカバーのロックを解除します。ディスプレイを閉じるときは、ディスプレイカバーが本体にロックされるようにします。

❷ ディスプレイ
文字やグラフィックが表示されます。
省電力機能によりパソコンが動作していなければ、自動的にディスプレイの表示が消えるように設定できます。
ディスプレイの表面には、傷や汚れを防止する「保護シート」が装備されております。

ディスプレイへの映り込みが気になる場合、四隅のシールをはがして、「保護シート」を外した状態でご使用ください。

❸ 電源スイッチ（ ⏻ ）
本体の電源をONします。(☞ 29ページ)
また、電源スイッチを押したときに、省電力機能で設定した動作を実行させることができます。

注 意

HDD LED、CD-ROM LEDが点灯しているときに、パソコンの電源をOFFにしたり、リセットしたりしないでください。ドライブの故障や、データの破損の恐れがあります。
また、電源をOFFにした後、再度電源をONにするときは、5秒以上待ってから操作してください。

❹ キーボード
キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ったりします。(☞ 48~51ページ)

❺ タッチパッド
指を軽くのせて動かすと、ディスプレイ上のマウスポインタが移動します。
(☞ 46ページ)

❻ タッチパッドボタン
それぞれ、マウスの右ボタン、左ボタンに対応しています。(☞ 46ページ)

❼ ステレオスピーカ
Windowsのシステム音や、マルチメディアを使用したときの音声が、ステレオで出力されます。
(☞ 54ページ)

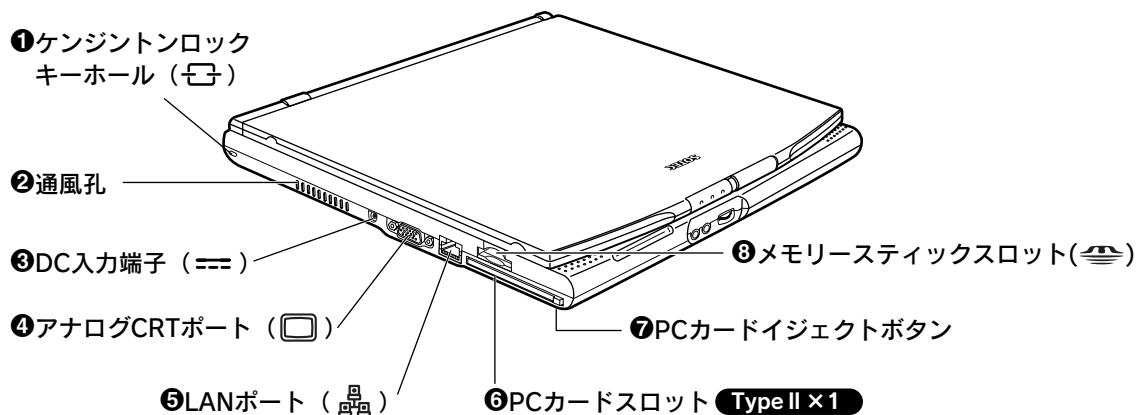
❽ スクロールボタン
ウィンドウのスクロールに使用します。
(☞ 47ページ)

❾ ボリューム（ ◢ ）
内蔵スピーカから出力される音量を調整します。
(☞ 54ページ)

❿ マイク端子（ 🎤 ）
外部オーディオ機器を接続し、音声をパソコンに取り込みます。(☞ 65ページ)

⓫ ヘッドホン端子（ 🎧 ）
市販のヘッドホンを接続します。
音声はステレオで出力されます。
(☞ 64ページ)

⓬ ステータスLED
パソコンの動作状態が表示されます。
(☞ 41ページ)

左側面

❶ ケンジントンロックキーホール（ ）
盗難防止用のロックに使用する、取り付け穴です。

❷ 通風孔
パソコン内部の熱を冷却する風を通します。壁などで塞がないでください。

❸ DC入力端子（ ）
付属のACアダプタを接続します。
(☞ 20ページ)

注　意

・付属のACアダプタ以外は絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
・ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

❹ アナログCRTポート（ ）
外部ディスプレイを接続します。
(☞ 76ページ)

❺ LANポート（ ）
10BASE-T/100BASE-TX接続対応のLANポートです。

注　意

本機のLANポートに接続できるケーブルは10BASE-T/100BASE-TX規格のイーサネットケーブルのみです。それ以外の規格のケーブルは使用しないでください。特にISDNケーブル・モジュラーケーブルは、絶対にLANポートへ接続しないでください。故障の原因となります。

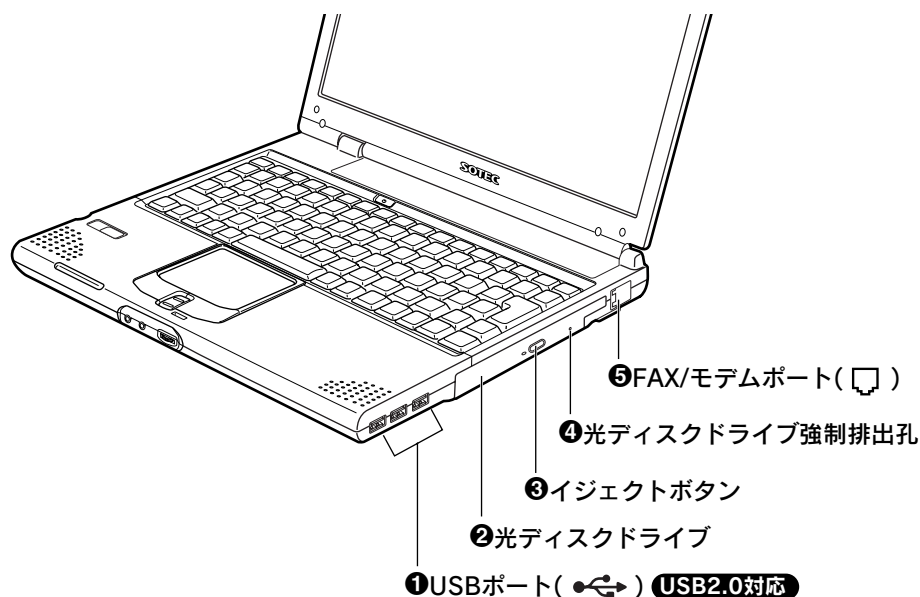
❻ PCカードスロット Type II ×1
PC Card Standard準拠のPCカードを差し込みます。(☞ 68ページ)

❼ PCカードイジェクトボタン
差し込んだPCカードを取り出します。
(☞ 69ページ)

❽メモリースティックスロット( )
メモリースティックを差し込みます。
(☞ 70～71ページ)

チェック

メモリースティックには差し込む向きがあります。方向を確認して、正しく差し込んでください。

右側面

❶ USBポート( ) USB2.0対応
USB2.0対応の周辺機器を接続します。USB1.1規格準拠の周辺機器も使用できますが、転送速度等はUSB1.1規格(Full-Speed)に基づきます。
(☞ 66～67ページ)

❷ 光ディスクドライブ
光ディスクドライブが読み込み可能なディスクを挿入します。光ディスクドライブは、製品の構成によって異なります。
(☞ 52～53ページ)

❸ イジェクトボタン
光ディスクドライブにCD-ROMディスクを挿入するとき、または取り出すときに押すボタンです。

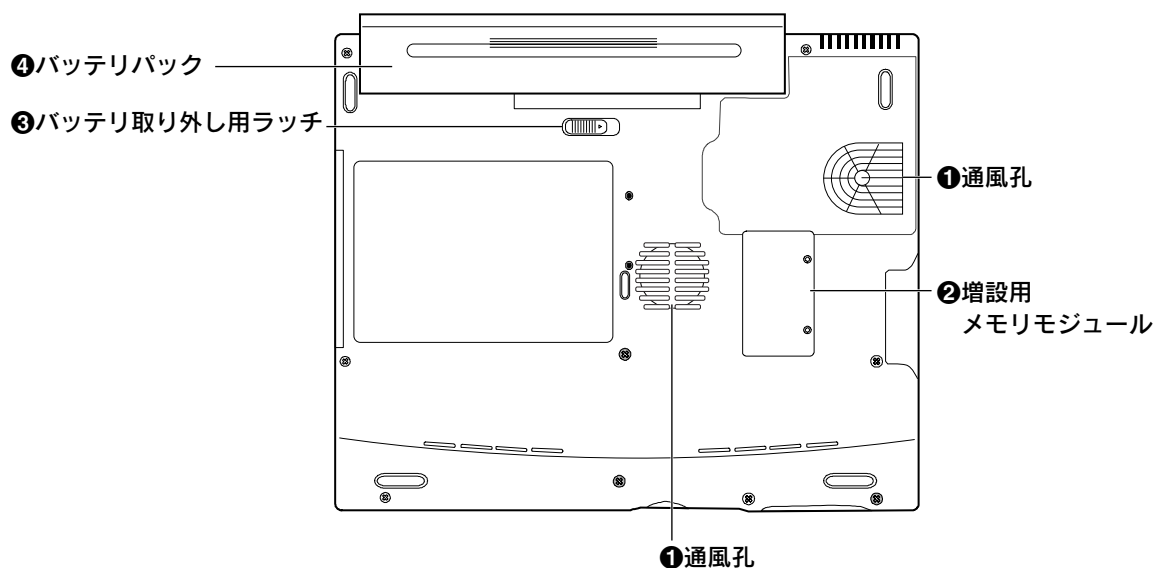
❹ 光ディスクドライブ強制排出孔
イジェクトボタンを押しても光ディスクドライブが出てこない場合、針金などを押し込むと、光ディスクドライブを強制的に排出させることができます。(☞ 53ページ)

注 意
光ディスクドライブが正常に動作している場合は使用しないでください。頻繁に使用すると故障の原因となります。

❺ FAX/モデムポート( )
アナログ電話回線と接続します。
(☞ 18ページ)

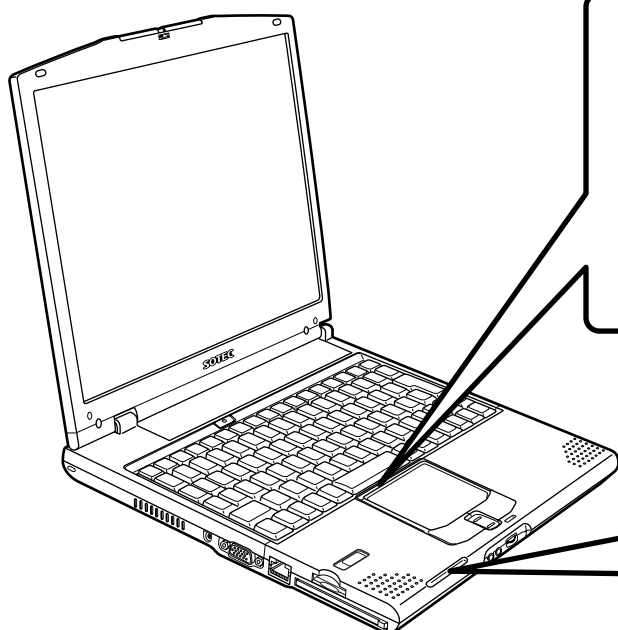
注 意
モジュラーケーブル以外のケーブルは絶対に差し込まないでください。故障の原因となります。

底　面

❶ **通風孔**
パソコン内部の熱を冷却する風を通します。

❷ **増設用メモリモジュール**
増設用メモリを取り付けることができます。
(☞ 73～74ページ)

❸ **バッテリ取り外し用ラッチ**
バッテリパックを取り外すときに、スライドさせながら取り外します。
(☞ 45ページ)

❹ **バッテリパック**
ACコンセントが無い場所でパソコンを動作させるためのバッテリです。
(☞ 42ページ)

ステータスLEDについて

❶ CD-ROM（シーディーロム） LED（ ）
光ディスクドライブのアクセス中に点灯します。

❷ HDD（エイチディーディー） LED（ ）
ハードディスクドライブのアクセス中に点灯します。

❸ Num（ニューメリック）ロックLED（ ）
NumLkキーがロック状態のときに点灯します。

❹ Caps（キャプス）ロックLED（ ）
CapsLockキーがロック状態のときに点灯します。ロック状態時は、Shiftキーを押さずアルファベットを大文字で入力できます。

❺ Scrl（スクロール）ロックLED（ ）
ScrollLockキーがロック状態のときに点灯します。ロック状態の機能は、使用するアプリケーションにより異なります。

❻ ACアダプタLED（ ）
ACアダプタ使用時の電源状態を表示します。
（☞ 43ページ）

❼ バッテリLED（ ）
バッテリ使用時の電源状態を表示します。
（☞ 43ページ）

❽ チャージLED（ ）
バッテリの充電状態を表示します。
（☞ 43ページ）

注意
HDD LED、CD-ROM LEDが点灯しているときに、パソコンの電源をOFFにしたり、リセットしたりしないでください。ドライブが故障したり、データが壊れたりする恐れがあります。
また、電源をOFFにした後、再度電源をONにするときは、5秒以上待ってから操作してください。

ACアダプタの接続とバッテリの充電

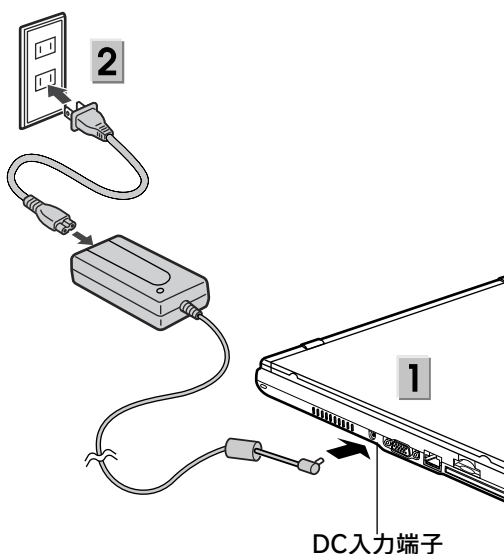
本機の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

初めて使うときは

バッテリは十分に充電されていない状態で出荷されています。初めてお使いになるときは、バッテリパックを取り付けてから、ACアダプタを接続してご使用ください。
ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後、まずバッテリパックを装着して、充電をしてください。

警 告

・弊社純正のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
・ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

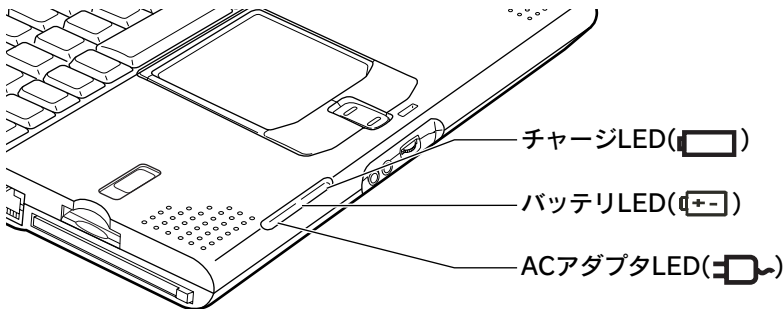
●ACアダプタの接続とバッテリの充電

1 **ACアダプタのプラグを、本機のDC入力端子に差し込みます。**

2 **電源ケーブルをACアダプタと電源コンセントに接続します。**

チャージLED( )が緑色に点滅し、充電が始まります。

使用できるAC電源は何ボルト?
本製品に付属のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており、自動的に切り替わりますので、海外でもお使いになれます。ただし、海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。

バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。
AC電源でお使いのときは、このままACアダプタを接続したままでお使いください。

ステータスLEDの表示

チャージLED( )

状　態	内　容
点灯	バッテリが満充電の状態です。
点滅	バッテリが充電中の状態です。

バッテリLED( )

状　態	内　容
点灯	バッテリを使用して、電源がONの状態です。
点滅	バッテリを使用して、電源がスタンバイの状態です。

ACアダプタLED( )

状　態	内　容
点灯	ACアダプタを使用して、電源がONの状態です。
点滅	ACアダプタを使用して、電源がスタンバイの状態です。

注　意

・バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず「バッテリパックの交換」(☞ 43ページ)の説明に従って交換してください。
・バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生する恐れがあります。バッテリの残量がすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源がOFFになります。バッテリの警告音が鳴ったらすぐにデータを保存してください。

スタンバイと休止状態

スタンバイはアプリケーションソフトなどの動作状態をメモリに保存し、パソコンの電源をOFFにする機能です。次回、電源をONにすると、電源をOFFにする直前の状態で、パソコンが起動します。
使用中のアプリケーションソフトを終了させることなく電源をOFFにできるので、アプリケーションソフトを再起動する必要がありません。ただし、スタンバイの状態では、少量の電力が消費されているため、バッテリのみで使用してるときに長時間スタンバイの状態にしておくことはお勧めできません。
休止状態も電源をOFFにする直前の状態で起動させる機能ですが、動作状態をメモリではなく固定ディスクに保存するため、休止状態の間に電力を消費することはありません。
スタンバイと休止状態の設定方法は、「SOTEC電子マニュアル」の「ユーザーズガイド応用編」の「省電力機能」をご参照ください。

バッテリの残量警告と終了動作の設定

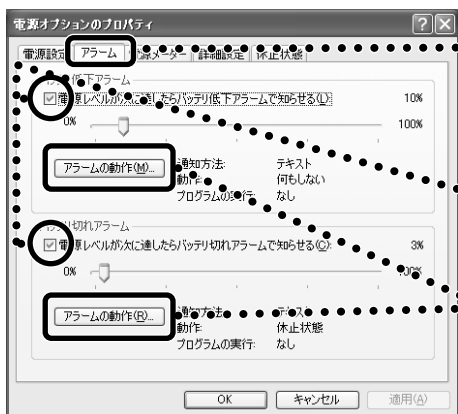
バッテリ残量が少なくなってきたことを知らせる警告音と、バッテリ残量が無くなったときにパソコンをどのような状態で電源をOFFにするかを設定できます。

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]を選択します。**

【電源オプションのプロパティ】ダイアログが表示されます。

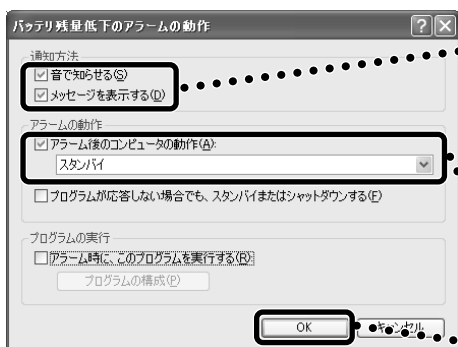
2 **[アラーム]タブを選択します。**

3 **チェックを入れると、バッテリ残量が警告表示されます。**

4 **[アラームの動作]ボタンをクリックすると、警告表示後のパソコンの動作を設定できます。**

5 **警告の通知方法を音で知らせるか、メッセージで表示させるかを選択します。**

両方を選択することもできます。

6 **警告表示後のパソコンの電源状態を、スタンバイ、シャットダウン、休止状態から選択します。**

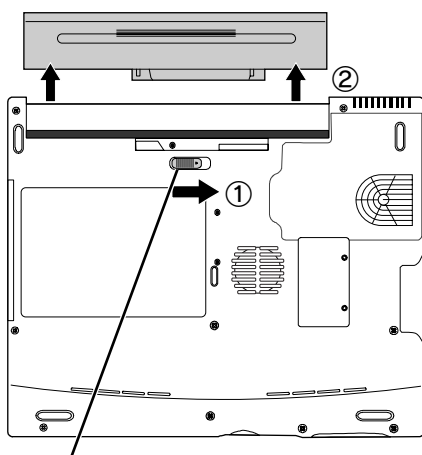
7 **[OK]ボタンをクリックします。**

バッテリパックの交換

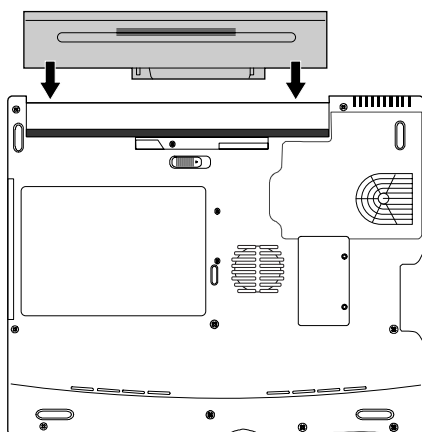
警　告

・弊社純正のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行わないでください。爆発や火災を起こす恐れがあります。
・バッテリパックの取り扱いについては「本製品を正しく安全にお使いいただくために」(☞ 2〜5ページ)も必ずお読みください。

バッテリパックは、電源がOFFの状態で交換します。交換前には、ACアダプタLED、バッテリLEDが消灯していることを確かめてください。

1 **ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。**

2 **バッテリ取り外し用ラッチを矢印の方向にスライドさせながら(①)、バッテリパックを取り外します(②)。**

3 **交換用のバッテリパックを矢印の方向にはめ込みます。**

バッテリ取り外し用ラッチがロックされるまで、確実にはめ込んでください。

タッチパッドを使ってみよう

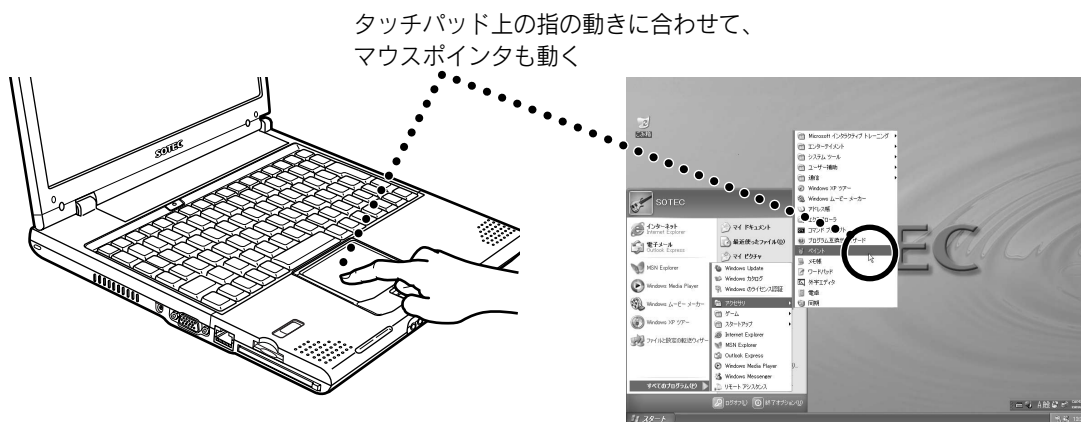
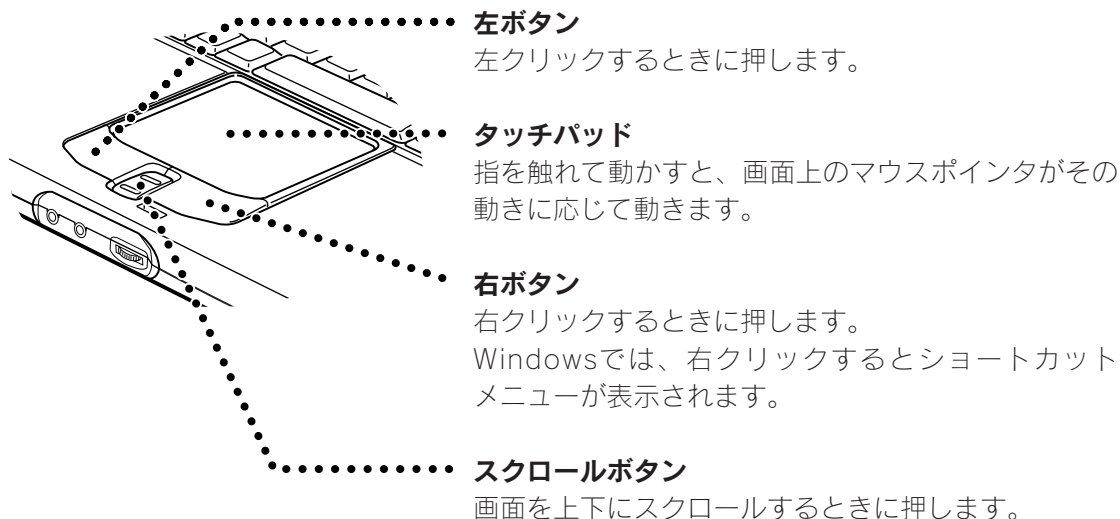
本機には、マウスと同じ機能を持つ「タッチパッド」があります。タッチパッドを使って画面上のマウスポインタ(マウスカーソルともいう)を動かし、Windowsを操作します。

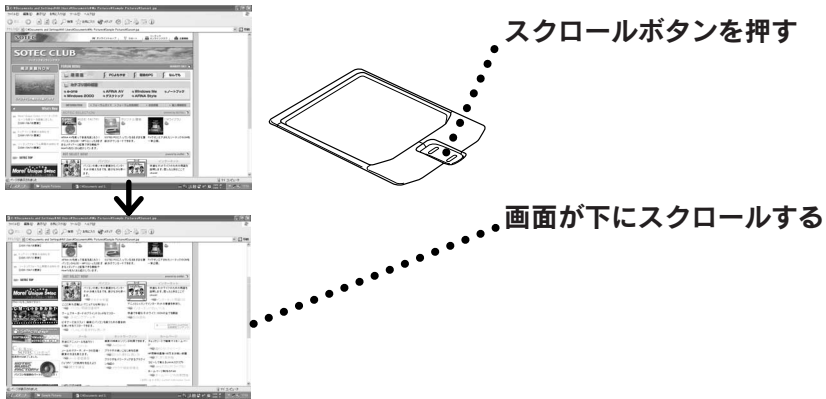
注 意

- タッチパッドをペン先などの先の尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。
- 2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。また、指先の皮脂や汚れによっても正常に動作しない場合がありますので、そのときは、十分に汚れを取りのぞいてからご使用ください。
- マウスポインタはタッチパッドを軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。

タッチパッドの名前と機能

タッチパッドは、本製品のキーボードの手前中央にあります。タッチパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のマウスポインタがその動きに応じて動きます。

タッチパッド上の指の動きに合わせて、
マウスポインタも動く

本製品のタッチパッドには次のような名前と機能があります。

●スクロール

スクロールボタンを押すことで、Windowsの画面を上下にスクロールできます。

SOTEC「電子マニュアル」参照

タッチパッドの操作方法
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞マウス＞
マウスの操作方法

キーボードを使ってみよう

キーボードは、文字や記号を入力したりパソコンへ指示をする役目をもっています。ここでは、キーボードの各キーの名前や機能について説明します。

キーはその機能によって、役割が大きく5つに分かれます。
ここでは便宜上、キーボードを色分けして説明していますが、製品のキーボードは色分けされていません。

●Windowsキー

単独で押すとWindows XPの「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows XPの代表的な機能がすぐに使えます。

キー	機能
[Windows]+[F1]	Windows XPの「ヘルプとサポートセンター」を表示
[Windows]+[M]	ウィンドウの最小化
[Windows]+[Tab]	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
[Windows]+[R]	【ファイル名を指定して実行】ダイアログを表示
[Windows]+[E]	マイコンピュータを起動
[Windows]+[F]	ファイルとフォルダ検索画面を起動
[Windows]+[Pause]	【システムのプロパティ】ダイアログを表示
[Windows]+[Ctrl]+[F]	コンピュータの検索画面を起動

●アプリケーションキー

マウスの右ボタンに相当します。使用するアプリケーションによって動作が異なります。お使いのアプリケーションソフトのマニュアルをご参照ください。

●制御キー(薄いアミ部分)

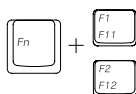
文字入力キーと組み合わせて使うキー、入力位置を決めるキー、パソコンに対してコマンド(命令)を送るキーなどです。
これらのキーだけを使って文字を直接入力することはできません。

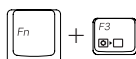
●文字入力キー

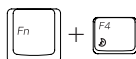
主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[CapsLock][Shift][NumLk][ひらがな][カタカナ]の各キーと組み合わせて、目的の文字が入力できます。

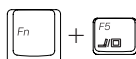
ファンクションキー

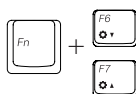
制御キーの一つである[Fn]キーとファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、省電力機能を作動させたりできます。

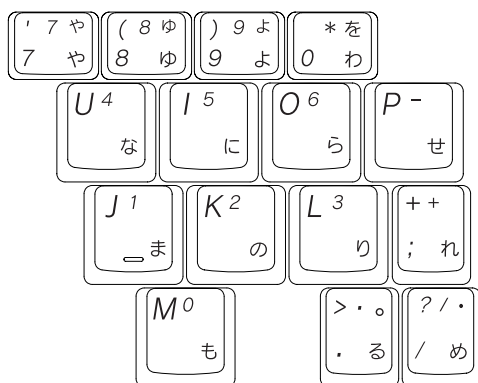
[F11]・[F12]キーを使用する

[Fn]キーを押しながら[F1]キーを押すと、[F11]キーとして使用できます。同様に[F2]キーを押すと、[F12]キーとして使用できます。

本体ディスプレイのバックライトのON/OFFを切り替える

[Fn]キーを押しながら[F3]キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのバックライトのON/OFFを切り替えます。

スタンバイに入る

[Fn]キーを押しながら[F4]キーを1回押すと、省電力機能が働きます。

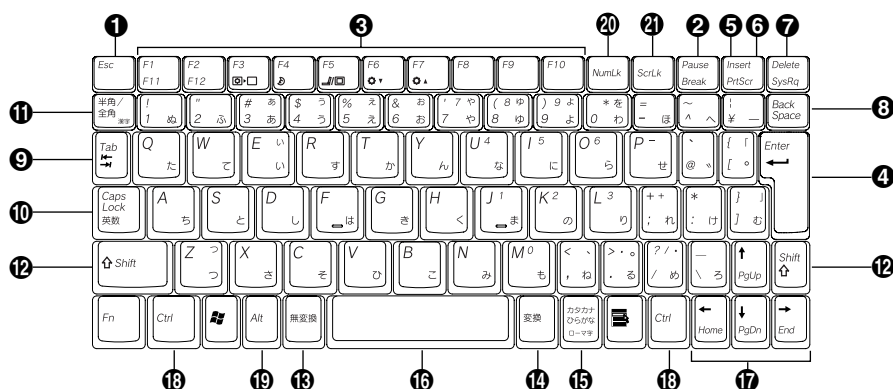
本体ディスプレイ表示か外部ディスプレイ表示かを切り替える

[Fn]キーを押しながら[F5]キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。(☞ 76ページ)

輝度を調整する

[Fn]キーを押しながら[F6]キーを押すごとにディスプレイの輝度が下がり、[F7]キーを押すごとにディスプレイの輝度が高くなります。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、[NumLk]キーを押すことで、キーボードの図の部分(ニューメリックキー)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができます。

STEP2 ご使用になる前に

各キーの機能

ここでは、キーボードの各キーの名前と機能を説明しています。

中止や中断させるコマンド(命令)を送るときに使います。

❶ Esc(エスケープ)キー
設定を取り消したり、実行を中止します。

❷ Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー
実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送ります。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ ファンクションキー
[F1]から[F12]までの10個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。キーを押したときの動作はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹ Enter(エンター)キー
通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させる場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行できます。

画面のハードコピーをとったり、Windows XPの画面を取り込むときに使います。

❺ PrtScr(プリントスクリーン)キー
[Fn]キーと一緒に押すと、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送します。

文字を編集するときに使います。

❻ Insert(インサート)キー【ロックされます】
文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼ Delete(デリート)キー
カーソル位置から右側の文字を削除します。
カーソル位置は変わりません。

❽ Back Space(バックスペース)キー
カーソル位置から、左側の文字を削除します。
カーソル位置は左に動きます。

ロック状態について
キーには、1回押すごとに状態が固定されてロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。
ロックされるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとキーボード上のステータスLEDが点灯します。

❾ Tab(タブ)キー
文字を入力しているときに押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shiftキーと同時に押すと、一つ前のタブ位置まで戻ります。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われます。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿ CapsLock(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】
アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shiftキーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。
(☞ 50ページ 「メモ」)

⓫ 半角/全角キー【ロックされます】
文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows XPの日本語入力システムMicrosoft IMEでは、1回押すごとに「日本語入力モード」がオン/オフになります。また、Altキーと同時に押すと「日本語入力モード」になります。

⓬ Shift(シフト)キー
他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時に押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときに使います。

⓭ 無変換キー
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したくない場合に押すと、入力モードが変わります。

⓮ 変換キー
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯ カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】
「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ押すと、「ひらがなモード」に、「ひらがなモード」のときはShiftキーと同時に押すと「カタカナモード」に切り替わります。また、Ctrl+Shiftキーと同時に押すとカナキー入力のオン/オフを切り替えることができます。

⓰ スペースキー
文字を入力しているときに押すと、スペース(空白)が入ります。

カーソルを動かしたりページをめくるときに使います。

⓱ カーソルキー
キーに表記されている矢印の方向に、カーソルが移動します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。

⓲ Ctrl(コントロール)キー
文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

⓳ Alt(オルト)キー
オルタネートキーともいい、文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

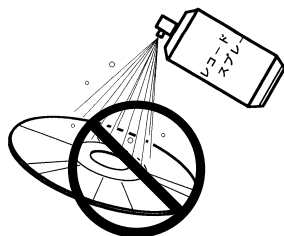
⓴ NumLk(ニューメリックロック)キー【ロックされます】
ロックすると、テンキーをテンキーとして動作させます。ロックを外すと特定の動作キーとして動作します。
(☞ 50ページ 「メモ」)

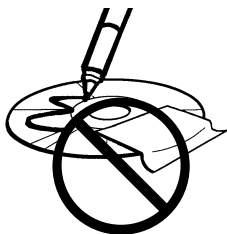
㉑ ScrLk(スクロールロック)キー【ロックされます】
使用しているソフトにより動作は異なりますが、通常はカーソルキーの動きを変えることができます。
(☞ 50ページ 「メモ」)

5 CD-ROMを使ってみよう

ここでは、CD-ROMを使う方法について説明します。

CD-ROMを使うときの注意

光ディスクドライブやCD-ROMディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、パソコンの電源をOFFにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。

記録面にラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

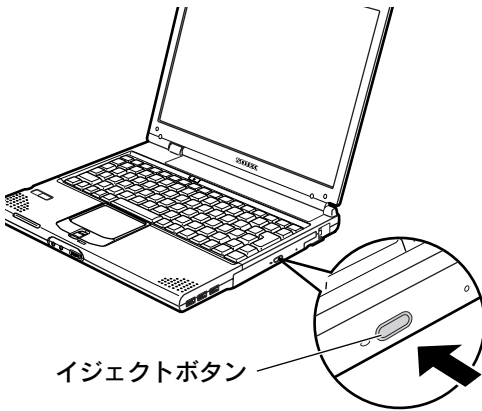
トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。

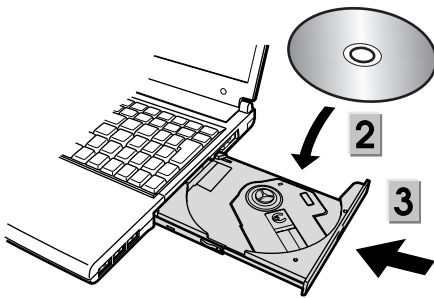
音楽CDの再生上のご注意

ディスクレーベル面に COMPACT disc DIGITAL AUDIO マークの入ったものなどJIS規格に合致したディスクをご使用ください。
CD規格外のディスクを再生した場合、正常な再生の保証は致しかねますので、ご了承ください。

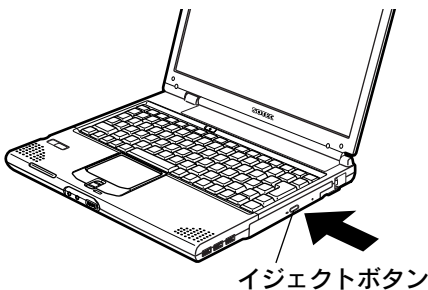
SOTEC「電子マニュアル」参照

CD-ROMディスクの規格について
メニュー>ユーザーズガイド応用編>CD/DVD>
CD/DVDのディスクの規格について

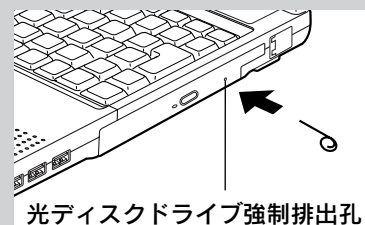
CD-ROMディスクの出し入れ

1 **パソコン本体の電源がONになっているのを確認してから、イジェクトボタンを押します。**

トレイが少し飛び出ます。

2 **CD-ROMディスクの記録面をトレイ側に向けて、トレイにCD-ROMディスクをセットします。**

チェック
CD-ROMディスクはトレイの中心部で固定します。「カチッ」という音がするまで確実にCD-ROMディスクをトレイにセットしてください。

3 **トレイを押し込み、光ディスクドライブを閉じます。**

4 **CD-ROMディスクを取り出すときは、再度イジェクトボタンを押します。**

トレイが少し飛び出てくるので、CD-ROMディスクを取り出します。

トレイが出てこない場合は・・・
イジェクトボタンを押してもトレイが出てこない場合、イジェクトボタンの右横にある光ディスクドライブ強制排出孔に、針金など(太さ1mm前後)を押し込んでください。トレイを手動で取り出すことができます。

STEP2 ご使用になる前に

音量を調整する

本機には、サウンド機能が搭載されており、音声を入出力する端子やスピーカが用意されています。ここではそれらを利用するときの、音量の調整方法を説明します。

内蔵スピーカについて

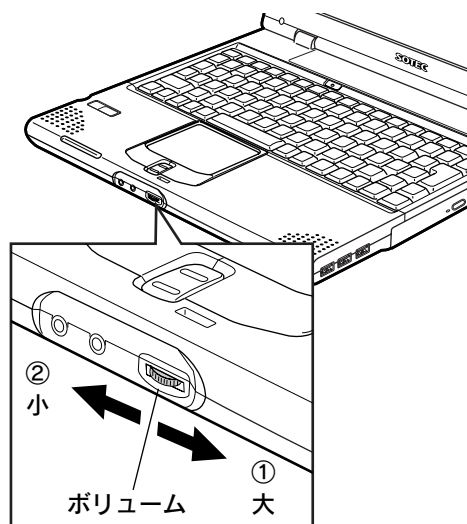
本製品にはステレオスピーカが内蔵されています。スピーカからは3種類の音源から音声を出力できます。それぞれの音源は、Windowsの「ボリュームコントロール」で個別に音量の調整やミキシングができます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている“ビープ音”を発生する音声です。
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、およびFMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	マイク端子に接続されたマイクからの音声です。

スピーカの音量を調整する

スピーカ/ヘッドホンの音量は次のように調整します。

ボリュームを使って調整する

本機前面にあるボリュームで音量を調整できます。

①右に回す
内蔵スピーカ/ヘッドホンから出力される音声が大きくなります。

②左に回す
内蔵スピーカ/ヘッドホンから出力される音声が小さくなります。

SOTEC「電子マニュアル」参照

Windowsからの音量の調整
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞音声＞Windowsからの音量調節

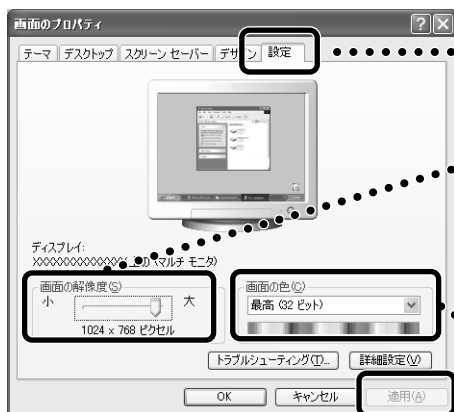
音声の録音
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞音声＞音声の録音

7 画面の解像度を調整する

ディスプレイの解像度を変更して、より広い領域でWindowsを表示したり、フォントの大きさを変更して、文字をより見やすく表示できます。ここでは解像度や色数の変更方法について説明します。

解像度や色数を変更する場合

1 **デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。**

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。

2 **[設定]タブを選択します。**

3 **を左右にスライドさせ、画面の解像度を選択します。**

初期設定は「1024×768ピクセル」です。

4 **ボタンをクリックし、画面の色(表示する色数)を選択します。**

初期設定は「最高(32ビット)」です。

5 **[適用]ボタンをクリックします。**

変更を確認するダイアログが表示されます。

[はい]ボタンをクリックします。

画面の表示性能をUPさせるには・・・
画面の表示性能は、ビデオメモリのサイズに比例し、サイズを増やすと、画面の表示性能もUPします(ご購入時のビデオメモリのサイズは8Mバイト)。
ビデオメモリのサイズを増やす場合は、メインメモリも増設することをおすすめします。(☞ 72〜75ページ)

SOTEC「電子マニュアル」参照

ビデオメモリの変更方法
メニュー＞付属のマニュアル＞ビデオメモリの変更方法

フォントサイズの変更方法
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞画像表示＞フォントサイズの変更

壁紙の設定
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞画像表示＞壁紙の設定

周辺機器を使いこなす

プリンタやスキャナなど、WinBookと接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。
さまざまな周辺機器と接続することで、WinBookをより充実して使うことができます。ぜひ、お読みください。

使用できる周辺機器

本機には、さまざまな周辺機器が接続できます。次にその一例を紹介します。

前面＆右側面

ヘッドホン端子

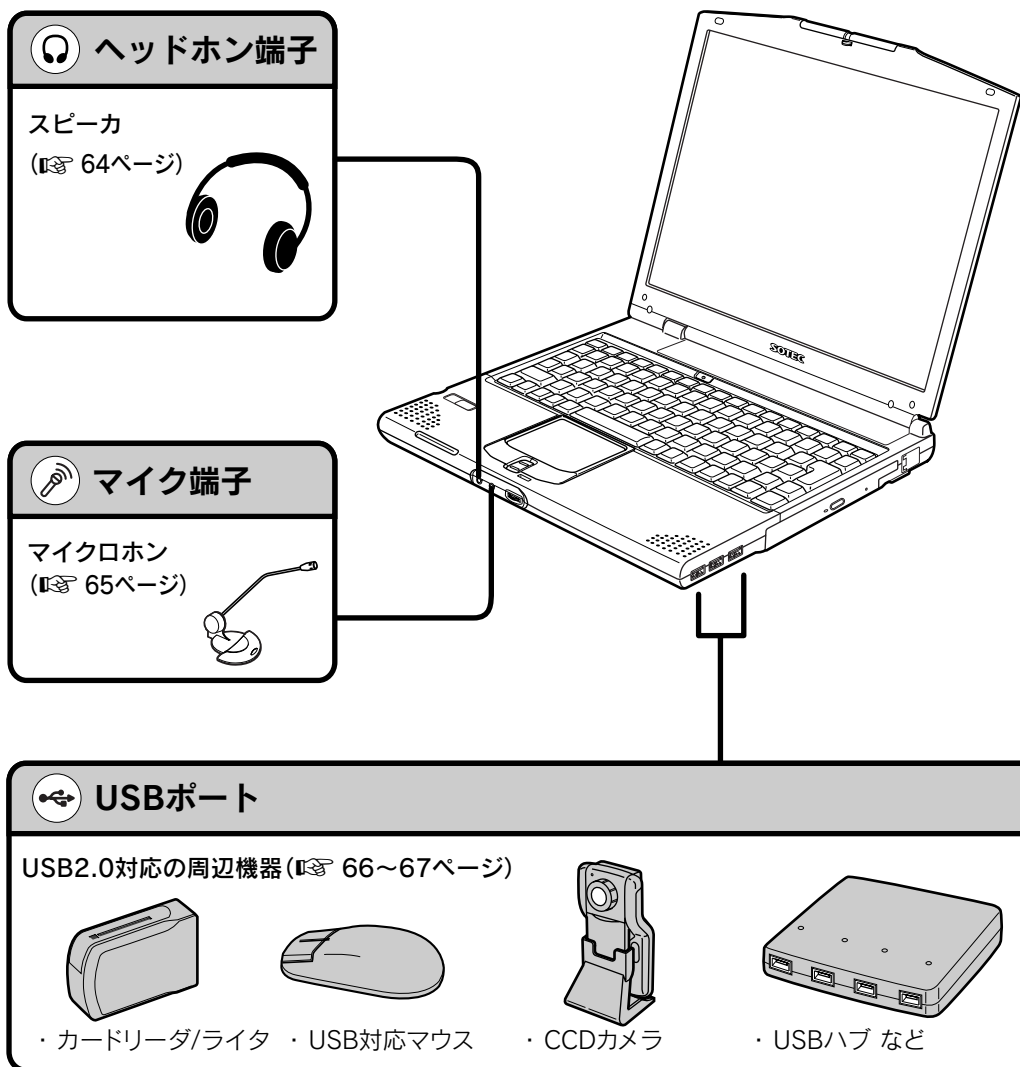
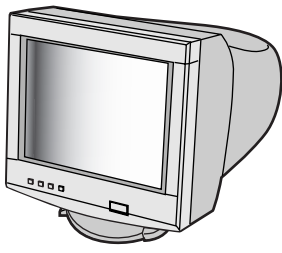
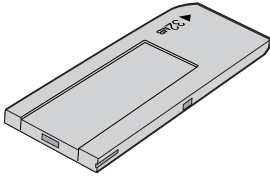
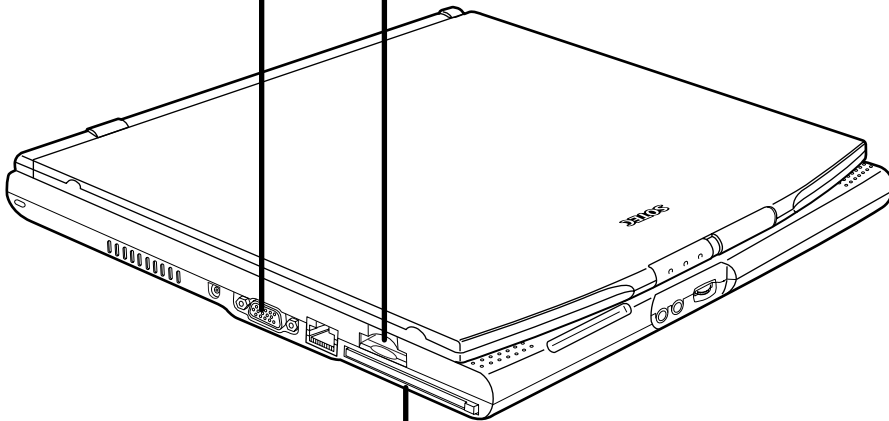
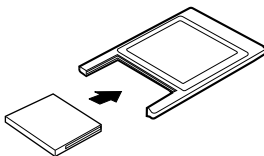
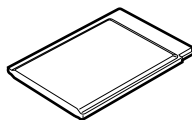
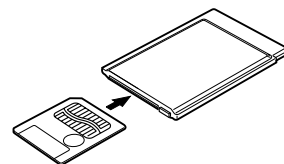
スピーカ
(☞ 64ページ)

マイク端子

マイクロホン
(☞ 65ページ)

USBポート

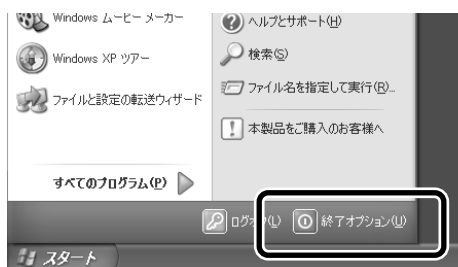
USB2.0対応の周辺機器(☞ 66〜67ページ)

・カードリーダ/ライタ　・USB対応マウス　・CCDカメラ　・USBハブ など

左側面

アナログCRTポート
外部ディスプレイ
（☞ 76ページ）
メモリースティックスロット
メモリースティック
（☞ 70ページ）
PCカードスロット
PCカード（☞ 68～69ページ）
・コンパクトフラッシュ
（カードアダプタが必要）
・フラッシュメモリーカード
・スマートメディア
（カードアダプタが必要）

周辺機器を取り付ける前に

ここでは周辺機器を取り付ける前に、まず確認したり、作業しなければならないことを説明します。

取り付けは電源をOFFにしてから

ケーブル類や周辺機器を取り付けるときは、本機の電源をOFFにして、ACアダプタとバッテリパックを取り外します。ACアダプタとバッテリパックが接続されたまま周辺機器を取り付けると、本機を壊したり、感電する恐れがあります。

PCカード、メモリースティック、USB対応の機器は、パソコンの電源をONにしたまま、取り付けや取り外しができます。

1 **[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。**

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。

2 **[電源を切る]をクリックします。**

電源がOFFになります。

3 **ACアダプタを取り外します。**

4 **バッテリパックを取り外します。**

5 **周辺機器を取り付けます。**

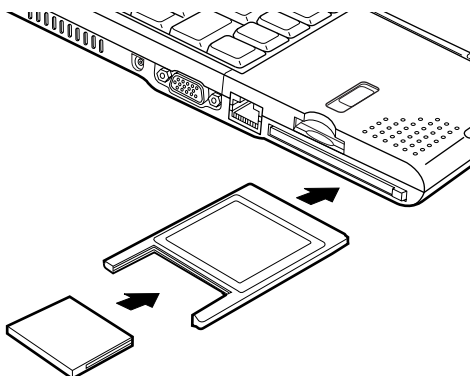
注 意

メモリなどを取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。

取り付け時の注意事項

体の静電気を取り除いてください

基板がむき出しになっているメモリなどは、静電気に弱く、帯電した手で触ると壊れてしまう恐れがあります。これらの機器を取り付ける前には、ドアのノブなど、身近な金属に触れて、帯電されている静電気を取り除いてください。

ユーザーズガイドをよく読んでください

周辺機器などの取り外しや、取り付けを間違うと、機器を壊してしまう恐れがあります。周辺機器を取り付ける前には本書をよくお読みください。

周辺機器に付属の取扱説明書をよく読んでください

周辺機器に付属の取扱説明書には、取り付け方法や、取り付けた後に必要となるソフトウェアやハードウェアの設定方法が詳しく書かれています。
周辺機器を取り付ける前には、必ず周辺機器の取扱説明書をよく読み、必要な機器、および必要な設定ファイル(デバイスドライバなど)を理解し、これから始める拡張の作業に備えましょう。

プラグアンドプレイについて

Windows XPには、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使用できる状態に設定する「プラグアンドプレイ」という機能があります。
プラグアンドプレイを実現するには、周辺機器に対応したデバイスドライバがWindows側で用意されている必要があります。
用意されていない場合は、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

●対応したデバイスドライバがすでにWindowsにある場合

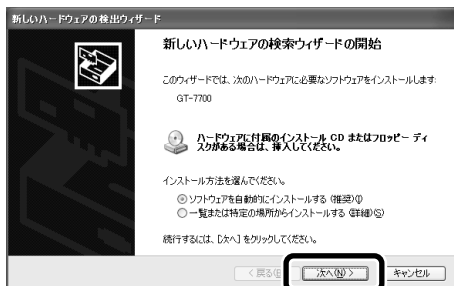
周辺機器に対応したデバイスドライバが、すでにWindows側で用意されている場合は、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使える状態になります。

1 デスクトップ画面右下のタスクバーに、「新しいハードウェアが見つかりました」と吹き出しが表示されます。

これで、周辺機器が使えるようになります。

●対応したデバイスドライバがWindowsにない場合

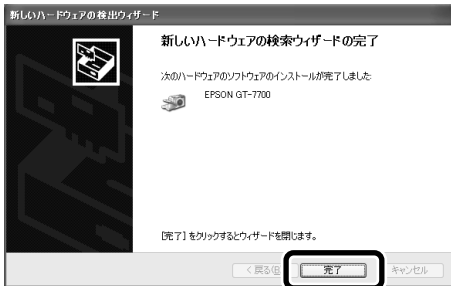
周辺機器に対応したデバイスドライバがWindowsにない場合、周辺機器に付属のCD-ROMディスクなどに収録されているデバイスドライバをWindowsにインストールします。

プラグアンドプレイに対応した周辺機器でも、場合によっては、設定が自動で行われない場合があります。
(☞ 電子マニュアルの「困ったときには」)

1 周辺機器を取り付けた後に、電源をONにします。

【新しいハードウェアの検索ウィザードの開始】ダイアログが表示されます。

2 [次へ]ボタンをクリックします。

3 **表示される指示に従って操作を行います。**

デバイスドライバが正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、設定は終了です。

4 **[完了]ボタンをクリックします。**

これで、設定は無事終了しました。

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合、デバイスドライバの組み込みや、リソースの設定は自分で行う必要があります。また、周辺機器側のディップスイッチなどを変更する必要があります。周辺機器の取扱説明書などをよく読み、設定を行ってください。

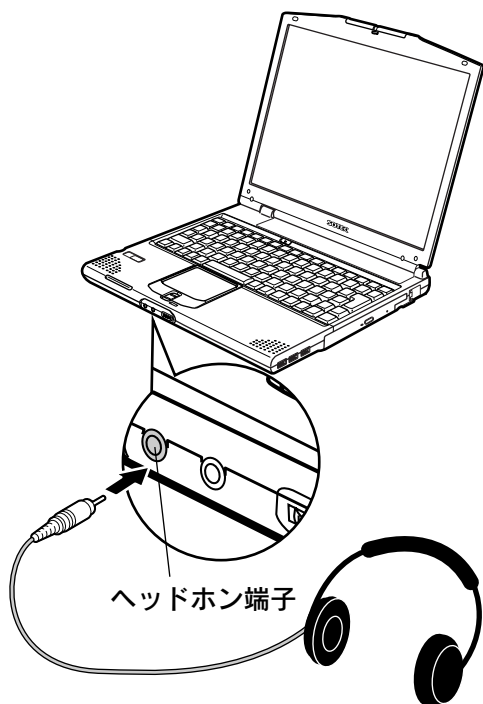
メモ **デバイスドライバとは**

周辺機器を使うときは、デバイスドライバという専用ソフトウェアが必要になる場合があります。デバイスドライバは、パソコンが周辺機器をコントロールするときに使う大切なソフトウェアです。
デバイスドライバは、あらかじめ本機のWindows XPに付属されているものと、周辺機器に付属のもの(フロッピーディスクやCD-ROMディスクで提供されています)があります。また、周辺機器メーカのホームページから最新のものを入手することもできます。
最新のデバイスドライバを入手することで、周辺機器の機能を最大限に引き出すことができます。

AV機器と接続する

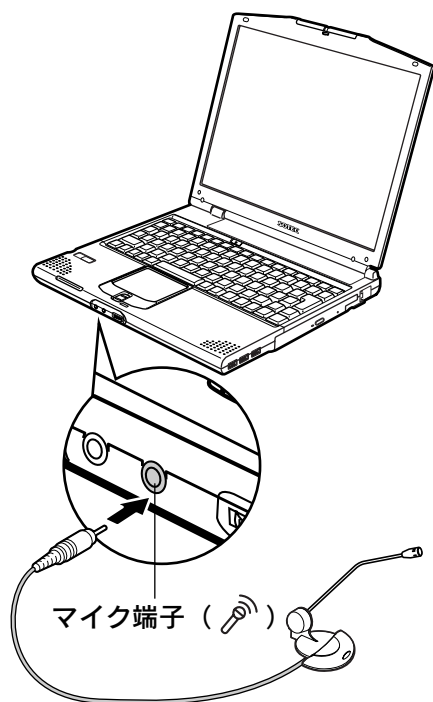
ここでは本製品と接続できるAV機器の紹介と接続方法を説明します。

ヘッドホンと接続する

市販のヘッドホンを使用すると、スピーカから音声を出力せずにヘッドホンから出力できます。

1 本機のヘッドホン端子に市販のヘッドホンのケーブルを接続します。

ヘッドホンはミニプラグ付きヘッドホンを、お近くの電器店でお求めください。

マイクロホンと接続する

市販のマイクロホンを接続して、マイクロホンから音声を録音できます。

1 **マイクロホンのプラグを本機のマイク端子( )に接続します。**

マイクロホンはモノラルタイプのミニプラグ付きマイクロホンを、電器店などでお求めください。

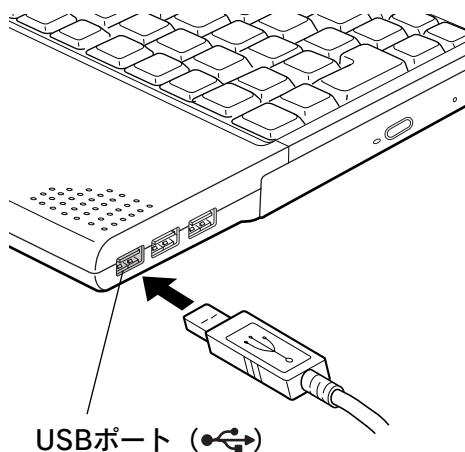
ハウリングの防止方法
スピーカにマイクロホンを近づけると、スピーカとマイクロホンが共振し、キーンという音が出ることがあります。これをハウリングといいます。ハウリングは、マイクロホンをスピーカから遠ざけるか、入力レベルを小さくする(ボリュームコントロールで調整)ことで防ぐことができます。

USB対応の周辺機器を使う

USBポートには、さまざまなUSB機器を接続して利用することができます。
ここでは、USB機器を本機に接続する方法について説明します。

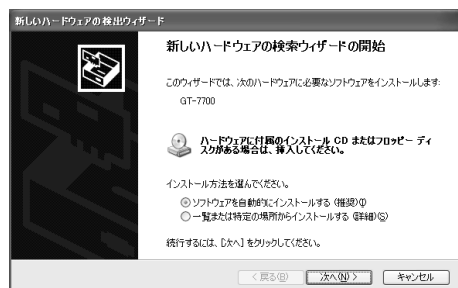
USB機器を接続する

本機の電源をONにした状態で、USB対応の周辺機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、USB機器をすぐに使い始めることができます。

ケーブルを差し込む前に、デバイスドライバのインストールが必要なUSB機器があります。USB機器に付属の取扱説明書をよく読んで、USB機器を接続してください。

1 本機のUSBポート（ ）に、USB機器のケーブルを差し込みます。

本機には、3つのUSBポートを用意しています。どのUSBポートを使用しても構いません。

ケーブルには差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。

USBポートが足りないときは
USBポートの数が足りないときは、市販のUSBハブを接続することで、USBポートの数を増やすことができます。

USB機器を接続後、しばらく待つと、自動的に画面の表示が切り替わり、【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログが表示されます。表示されないときは、USBポートからコネクタを一度抜き、3秒以上時間をおいてから、再度差し込んでみてください。

しばらくすると、自動的に必要なデバイスドライバを読み込み始めます。

2 表示される指示に従って操作します。

デバイスのインストールが終了したことを示すメッセージが表示されれば、設定は終了です。

以上の方法で画面の表示が切り替わらないときは、Windowsを再起動させ、再度USB機器を接続してください。

USB機器に、Windows XP対応のデバイスドライバが付属されていない場合、USB機器をWindows XPで使うための専用デバイスドライバが別途必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書を読むか、USB機器販売メーカにお問い合わせください。

3 [完了]ボタンをクリックします。

USB機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

USB機器は、一度接続して設定が終了すれば、次回からはUSBポートにコネクタを差し込むだけで、すぐに機器が使用できるようになります。このとき【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログは表示されません。

それぞれのUSBポートごとにUSB機器が管理されるため、前回とは異なるUSBポートにUSB機器を接続すると【新しいハードウェアの検索ウィザード】が表示されることがあります。その場合はメッセージに従って操作してください。

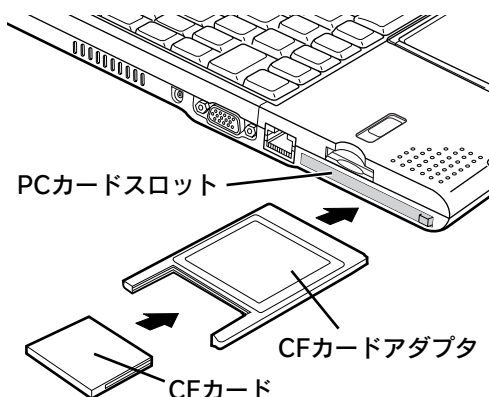
SOTEC「電子マニュアル」参照

USB
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞周辺機器＞USB

PCカードを使う

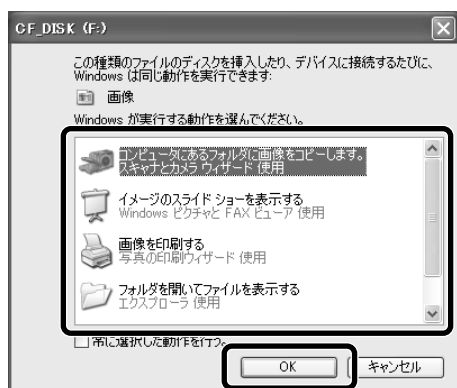
PCカードスロットには、市販のPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法について説明します。

PCカードの差し込み

ここでは、デジタルカメラの画像の記憶媒体として使用されるコンパクトフラッシュを例に、本機に差し込んで使用するまでの手順を説明します。

1 本機のPCカードスロットに、PCカードを差し込みます。

ここでは、コンパクトフラッシュアダプタに差し込んだコンパクトフラッシュをPCカードと呼びます。

PCカードは差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。差し込む方向については、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

しばらくすると、自動的に認識されます。コンパクトフラッシュに画像などが保存されている場合は、スライドショーなどを自動的に行う機能が働きます。

CF_DISK (F:)

この種類のファイルのディスクを挿入したり、デバイスに接続するたびに、Windows は同じ動作を実行できます:

画像

Windows が実行する動作を選んでください。

- コンピュータにあるフォルダに画像をコピーします。 スキャナとカメラ ウィザード 使用
- イメージのスライド ショーを表示する Windows ピクチャと FAX ビューア 使用
- 画像を印刷する 写真の印刷ウィザード 使用
- フォルダを開いてファイルを表示する エクスプローラ 使用

常に選択した動作を行う。

OK　キャンセル

2 実行させたい機能を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

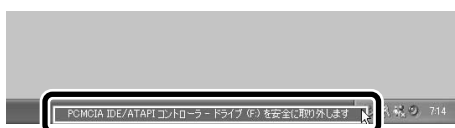
機能を実行させたくない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

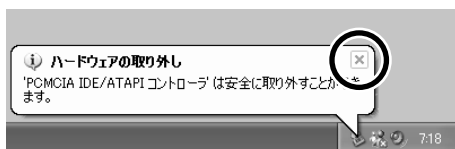
PCカードによっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

PCカードの取り出し

PCカードへのアクセス中に、本機からPCカードを取り出すと、スマートメディアやコンパクトフラッシュに記録されているデータが壊れる場合があります。取り外しは必ず次の手順で行ってください。

スタンバイ・休止状態でPCカードを取り出すと、本機が正常に動作しない恐れがあります。PCカードの取り出しは、スタンバイ・休止状態から元の状態に戻してから、必ず次の手順で取り出してください。

1 **デスクトップ右下(タスクバー)の のアイコンをクリックします。**

2 **「PCMCIA IDE/ATAPI コントローラードライブを安全に取り外します」を選択します。**

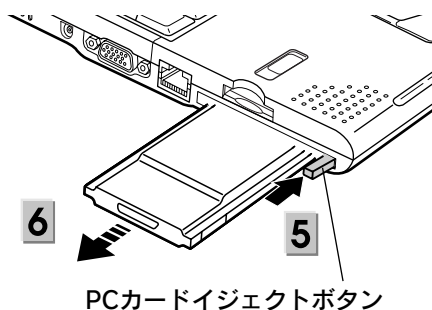
表示されるメッセージは、差し込んでいるPCカードによって異なります。

3 **次のようなダイアログが表示されたら ✕ ボタンをクリックします。**

4 **PCカードイジェクトボタンを押し込みます。**

PCカードイジェクトボタンが出てきます。

PCカードイジェクトボタン

5 **PCカードイジェクトボタンをもう一度押し込みます。**

PCカードがPCカードスロットから少し出てきます。

6 **PCカードをゆっくりと引き抜きます。**

SOTEC「電子マニュアル」参照

PCカード
メニュー＞ユーザーズガイド応用編＞周辺機器＞PCカード

メモリースティックを使う

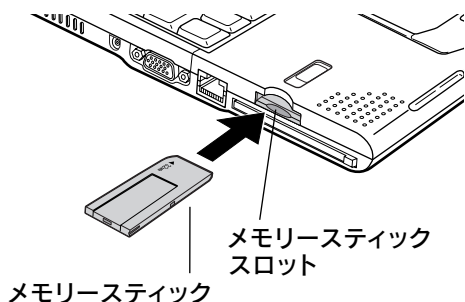
本機前面にあるメモリースティックスロットには、市販のメモリースティックメディアを差し込んで使用することができます。ここでは、メモリースティックの使いかたを説明します。

メモリースティックとは

メモリースティックは、ソニー株式会社が提唱する、半導体メモリを利用した板状の記録メディアのことです。使いやすいコンパクトサイズで大容量のデータを扱うことができます。

・画像ファイルなど、通常のファイルデータの読み出し・書き込み専用です。
・マジックゲート メモリースティックに著作権保護(暗号化)を施して記録された音声ファイルは、本機のメモリースティックスロットに装着した状態では再生できません。

メモリースティックの差し込み

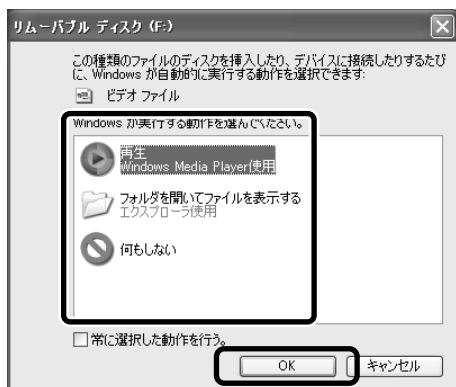
メモリースティックを本機に差し込んで、使用するまでの手順を説明します。

1 **ラベル面を上にして、メモリースティックスロットに差し込みます。**

しばらくすると自動的に認識され、ダイアログが表示されます。

メモリースティックには差し込む向きがあります。方向を確認して、正しく差し込んでください。

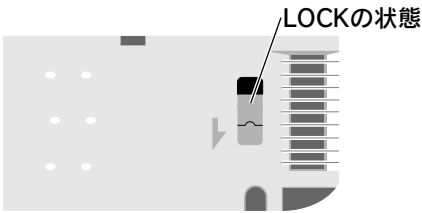
2 **実行させたい機能を選択して、[OK]ボタンをクリックします。**

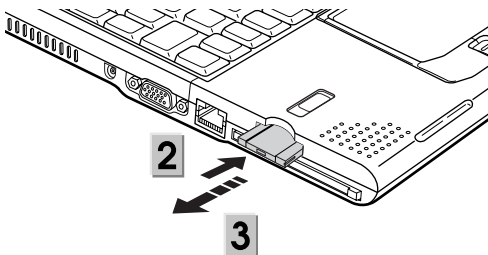
機能を実行させたくない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

表示される画面は、メモリースティックに入っているファイルによって異なります。

ファイルをコピーする

正しく認識されたメモリースティックのアイコンに、他のディスクからファイルをドラッグアンドドロップすると、メモリースティック内にコピーできます。

誤消去防止スイッチについて

メモリースティックの背面には誤消去防止スイッチがあります。スイッチを「LOCK」に合わせると、データを誤って消去する恐れはありません。

メモリースティックの取り出し

メモリースティックを本機から取り出すまでの手順を説明します。

1 **メモリースティックの動作が終了しているのを確認します。**

2 **メモリースティックを押し込みます。**

メモリースティックが少し出てきます。

3 **メモリースティックを引き抜きます。**

7 メモリの増設

複数のアプリケーションを使っているときなどに、処理速度が遅いと感じるようになってきたら、メモリを増やしてみましょう。ここでは、メモリについての基本的な知識と、メモリの増設方法について説明します。

メモリについて

メモリは、作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいように、メモリの総容量が大きいとアプリケーションの動作も快適になります。

本機で使用できるメモリ

本機には、増設用メモリモジュールが1個あります。メモリは、最大640Mバイト(オンボード(128Mバイト)+512Mバイトのメモリを1枚追加)まで増やすことができます。
本機で使用できるメモリは、次の仕様の200ピンSO-DIMMモジュールです。

メモリの種類	DDR SDRAM
メモリの速度	266MHz(PC2100)

増設用メモリモジュールにメモリが装着されているモデルは、メモリを取り外して増設します。

注意

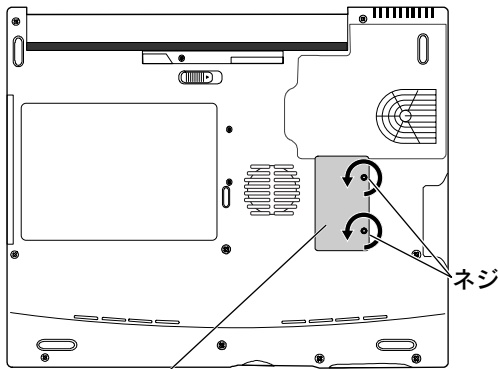
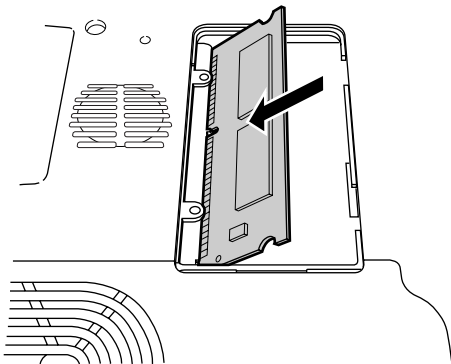
メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外したメモリは大切に保管してください。

メモリの取り付け

ここでは、メモリの取り付け方法を説明します。

メモリを取り扱うときに気をつけること

注　意

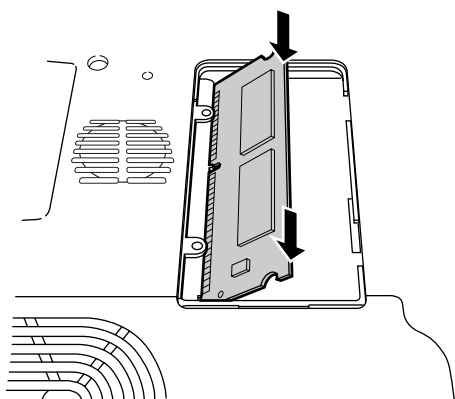
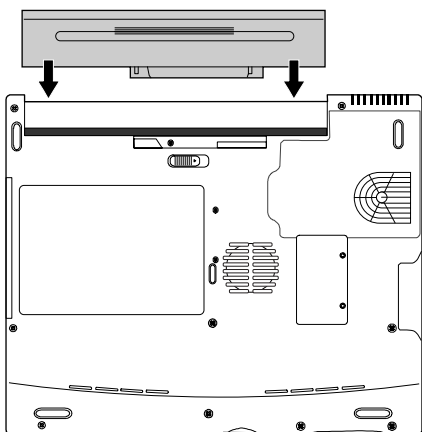
- 装着の前には、必ず本機の電源をOFFにしてください。
- 装着の前には、必ずバッテリパックとACアダプタを取り外してください。
- 本機には必ず弊社指定のメモリをお使いください。
- メモリは静電気に大変弱い部品です。静電気を帯びた物や人の手でメモリに触れると、メモリが壊れる恐れがあります。メモリを取り扱うときは、体の静電気を取り除いてください。(☞ 61ページ)
- メモリの端子部には触れないでください。端子部分に手を触れると、接触不良によりメモリが壊れる恐れがあります。

1 **ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返しにします。**

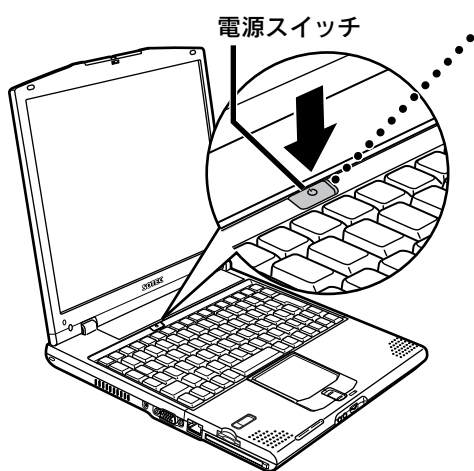
2 **増設用メモリモジュールのカバーを固定している2つのネジを取り外します。**

3 **増設用メモリモジュールのカバーを取り外します。**

4 **メモリを増設用メモリスロットのコネクタ部へ斜めに差し込みます。**

メモリには差し込む向きがあります。向きを間違えないようにしてください。

STEP3 周辺機器を使いこなす

5 メモリのコネクタに差し込まれていない部分を「カチッ」と音がするまで下に押し込みます。

6 増設用メモリモジュールのカバーを取り付け、ネジで固定します。

7 バッテリパックを装着、またはACアダプタを接続します。

8 電源をONにします。

9 F2キーを押します。

BIOSセットアッププログラムが表示されます。

10 【Auto Configuration with Optimal Settings】を選択して、Enterキーを押します。

BIOSの設定を初期設定に戻すメッセージが表示されます。

11 Yキーを押してから、Enterキーを押します。

BIOSの設定が初期状態に戻り、Windowsが再起動します。

増やしたメモリを確認する

電源をONにして、メモリが増えているか確認しましょう。

1 **電源をONにします。**

2 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]を選択します。**

【コントロールパネル】ウィンドウが表示されます。

3 **[パフォーマンスとメンテナンス]を選択します。**

【パフォーマンスとメンテナンス】ウィンドウが表示されます。

4 **[システム]を選択します。**

【システムのプロパティ】ダイアログが表示されます。

5 **ここに表示されている数字を確認します。**

- 表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合は、メモリが正しく取り付けられているか、このパソコンで使えるメモリを取り付けたかをご確認ください。
- 本製品のメモリは、自動的にビデオメモリに割り当てられます。
  そのため、実際に取り付けたメモリ容量より少なく表示されます。

8 外部ディスプレイを接続する

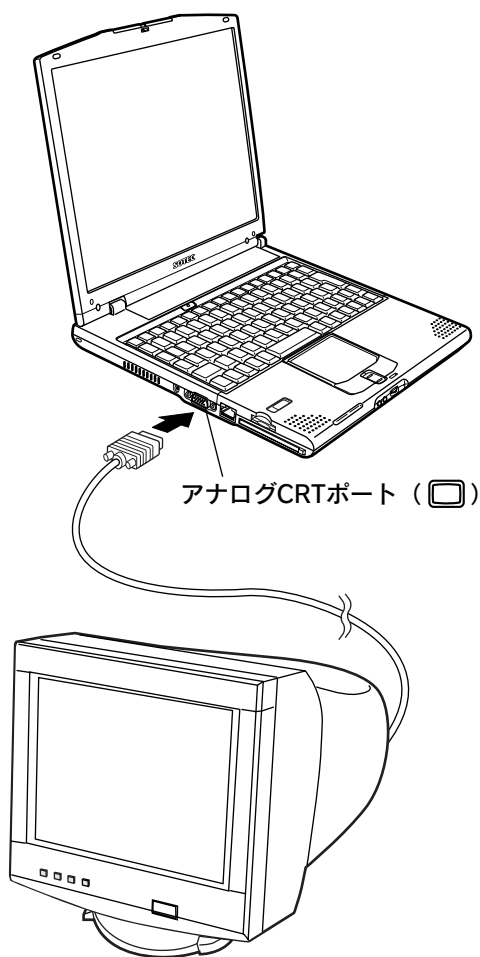
本機には、外部ディスプレイを接続するためのコネクタが装備されています。

1 本機の電源をOFFにします。

・機器の接続の前に、本機の電源は必ずOFFにしてください。
・レジュームや休止状態といった省電力機能が働いている状態では接続しないでください。省電力機能の状態の場合は、再度電源をONにし、[コンピュータの電源を切る]から「電源を切る」を選択しパソコンの電源をOFFにしてください。(☞ 28ページ)

2 本機のアナログCRTポート(▭)に、外部ディスプレイのケーブルを接続します。

・本機の電源をONにしてから、外部ディスプレイの電源をONにしてください。
・外部ディスプレイを接続した場合Windowsのコントロールパネルの[画面]で、「ディスプレイの種類」の設定変更が必要なときがあります。
・本体ディスプレイと外部ディスプレイを同時表示する場合、接続する外部ディスプレイは、設定したデスクトップ領域(解像度)をサポートするものを使用してください。

Fn+F5キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。

困ったときには・・・

本機の使用中に、トラブルが発生したり、疑問に感じたりしたことがあれば、あわてずにこの項目をご参照ください。

「おかしいな？」と思ったら

本機のご使用中にトラブルが発生したり、疑問に感じたことがあれば、あわてずに次の項目をチェックしながら対処してください。

まずはじめに

あわてて対処しないでください

トラブルが発生したと思ったら、パソコンをそのままの状態で1分くらい放置してください。
すぐに電源を切ったり、むやみにマウスのボタンを押したり、キーボードのキーをたたいたりしないでください。
また、何らかのメッセージが表示された場合は、そのメッセージを書きとめてください。

1 本書で該当する項目を探しましょう

☞「困ったときのチェックリスト」(80ページ)

本書に該当する項目があれば、本書の指示に従って解決してください。

2 オンライン情報から該当する項目を探しましょう

☞「パソコンで調べる」(79ページ)

本書以外にも、弊社Webサイト「ソーテックオンラインサポート」や、Microsoft社のWebサイト「マイクロソフトヘルプとサポート」を利用して問題を解決できます。トラブル解決のためのQ&Aが掲載されています。また、Windows XPおよびアプリケーションソフトのヘルプもご活用ください。

3 パソコンを購入時の状態に戻しましょう

☞「パソコンを購入時の状態に戻す（リカバリー）」(89ページ)

本製品に付属しているリカバリCD-ROMを使って、本機をご購入時の状態に戻します。
(この作業をリカバリーといいます)
リカバリーする前には、必要なデータや設定情報のバックアップを取ってください。

4 SOTECテクニカルサポートセンタに連絡しましょう

☞別冊「サポートのご案内」

以上の方法でどうしても解決できないときは、SOTECテクニカルサポートセンタに連絡してください。連絡する前に、別冊「サポートのご案内」をよくお読みになり、注意事項などをご確認ください。

2 パソコンで調べる

本書以外にも、次のWebページおよびヘルプをご参照ください。お客様がパソコンをご利用になる際に、有用な情報が提供されています。

●SOTEC電子マニュアル (デスクトップ画面にある[SOTEC電子マニュアル]アイコンをダブルクリック)

本機のマルチメディア機能の活用方法、およびWindows XPやインターネットの便利な使いかたを図解つきで説明しています。また、トラブルの解決方法および予防方法も説明しています。

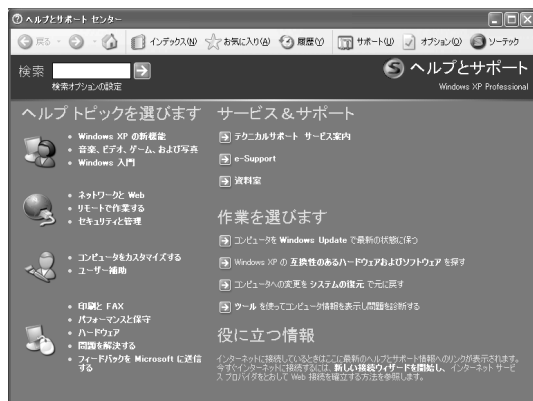
●ソーテックオンラインサポート (http://sotec.techsupport.co.jp/)

弊社製品の仕様の公開や、SOTECテクニカルサポートセンタに寄せられる質問などを掲載しています。また、各製品ごとに、ドライバおよびプログラムのダウンロードもできます。

●マイクロソフトヘルプとサポート (http://www.microsoft.com/japan/support/)

Windows固有の技術情報を中心に掲載されています。Windowsの不具合の修正プログラムもこのWebページよりダウンロードできます。

●ヘルプとサポート ([スタート]ボタン→[ヘルプとサポート])

Windowsおよび本機に関して、知っておくと有用な情報を掲載しています。また、Windowsのトラブルシューティングおよびチュートリアルもご利用になれます。

3 困ったときのチェックリスト

トラブルが発生した、または発生したと思ったら、下のチェックリストでパソコンの症状をチェックしてください。

1 パソコンの電源はONになりますか？

●ONになりません（☞ 82ページ）

↓ ONになります

2 Windowsは起動しますか？

●セーフモードで起動します（☞ 83ページ）
●起動しません（☞ 82～84ページ）

↓ 正常に起動します

3 Windowsの画面は表示されますか？

●表示しますが、正常ではありません（☞ 85～86ページ）
●セーフモードで表示されます（☞ 83ページ）

↓ 正常に表示されます

4 マウス・キーボードは正常ですか？

●正常ではありません（☞ 86～87ページ）

↓ 正常に動作します

SOTEC電子マニュアルを起動してください。（次ページ参照）

SOTEC電子マニュアルで調べる

Windowsの使用中に起こるトラブルや質問は、「SOTEC電子マニュアル」の「困ったときには」に記載しています。

①パソコン本体
フロッピーディスク、CD/DVD、CPU、メモリなどのトラブルや質問をまとめています。

②インターネット
インターネットや電子メールの使用中によく起こるトラブルや質問をまとめています。

③Windows
Windows本体に関する質問をまとめています。

④周辺機器
周辺機器に関するトラブルや質問をまとめています。

4 よくある質問集

本機のご使用中に遭遇する、よくある質問や問題をまとめました。SOTECテクニカルサポートセンタへお問い合わせいただく前に、ご確認ください。

パソコンを起動する前に

Q1

海外のコンセントに接続して使用できるか

A

・**AC電源が100V～240Vまでの間であれば使用できます（プラグの形状が異なる場合、変換プラグが必要）。**

ただし、日本国外で本機を使用される場合は、サポート対象外となります。

パソコンが動かない

Q2

電源スイッチを押しても動かない

A

・**ACアダプタは正しく接続されていますか？**

ACアダプタのプラグが本機と正しく接続されているか、ACアダプタの電源プラグが電源コンセントに正しく接続されているかをご確認ください。

・**バッテリは十分に充電されていますか？**

ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。

・**ACアダプタが故障している可能性があります。**

他の電気製品を本機が接続されている電源コンセントに接続して、他の電気製品が動くかどうかご確認ください。他の電気製品が正常に動くようであれば、ACアダプタが故障している可能性があります。SOTECテクニカルサポートセンタへお問い合せください。

・**本機が故障していることがあります。**

SOTECテクニカルサポートセンタへお問い合せください。

Q3

画面に何も表示されない

A

・**本機の電源はONになっていますか？**

本機の電源LEDを確認し、消えている場合は本機の電源スイッチをONにしてください。

・**表示モードの設定が外部ディスプレイになっており、外部ディスプレイの電源がOFFになっていませんか？**

本機の電源をONにし直してから再度、外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。または、Fn＋F5キーを同時に押して、表示モードを液晶ディスプレイに戻してみてください。

Q4

パソコンの電源をONにしたところ、黒い画面に英語の文字が表示され、Windowsが起動しない

A

・**フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入ったままになっていませんか？**

フロッピーディスクを挿入したままパソコンの電源をONにして起動すると、このメッセージが表示されます。もし入っていれば、フロッピーディスクを抜いていずれかのキーを押してください。

上記方法でも解消しない場合は、リカバリーを試してください。なお、リカバリーを実行すると、Windowsが工場出荷時の初期状態に戻り、お客様がハードディスクドライブに保存されたデータは全て消去されてしまいます。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ることをお勧めします。
リカバリー方法は、「パソコンを購入時の状態に戻す」をご参照ください。(☞ 89ページ)
一部のアプリケーションについては、個別にインストールしていただく必要があります。

・**これで回復できない場合は、ケーブルとハードディスクドライブの物理的な接触不良の可能性もありますので、SOTECテクニカルサポートセンタまでお問い合せください。**

Q5

パソコンを起動したところ、「セーフモード」という文字が画面に表示され、通常よりも低い解像度で起動している

A

・**この状態は誤動作ではなく、「セーフモード」というWindowsを正常な状態に戻すための診断モードです。**

セーフモードで起動した場合、ドライバや周辺機器との接続に問題があるか、何かの設定が壊れているかなどの原因が考えられます。セーフモードは、不具合の原因がどこにあるかを調べて、それを解消するための起動モードであるため、不具合がどこにあるかを調べるための最低限の操作のみを行うよう設定されています。

問題解決後(自動修復含む)、再起動を行うと通常どおりWindowsが起動いたします。

Q6

周辺機器を取り付けたらWindows XPが起動しない

A

・**周辺機器のデバイスドライバが原因で、Windows XPが起動できなくなった可能性があります。**

「セーフモード」でWindows XPを起動して、トラブルの原因と思われるデバイスドライバを無効にしてください。この方法でWindows XPが正常に起動した場合、正しいデバイスドライバをインストールするか、デバイスドライバ自体を削除する必要があります。
「セーフモード」でデバイスを無効にするには、次の操作に従って設定してください。

①本機の電源をONにし、メモリチェックが終了したら[F8]キーを連打してください。
②[Windows拡張オプションメニュー]が表示されるので、「セーフモード」をキーボードで選択してください。
③[オペレーティングシステムの選択]で「Microsoft Windows XP」を選択してください。
④ユーザー名を選択してください。セーフモードでWindows XPが起動します。
⑤【デバイスマネージャ】ダイアログを表示させ、追加した周辺機器の【プロパティ】ダイアログで[全般]タブをクリックしてください。
⑥「すべてのハードウェアプロファイルを使用する」のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックしてください。

Windows XPを再起動すると、通常モードでWindows XPが起動します。

・**この方法でもWindows XPが起動しない場合、本機の電源をOFFにしてから、新しく取り付けた周辺機器を外してください。**

Q7

終了できない

A

・**電源スイッチを4秒以上押すことにより電源を切ることが可能です。**

その際、必ず各種アクセスLEDがついてないことをご確認ください。上記の方法で電源が切れない場合は、ACアダプタを外してください。バッテリが装着されている場合は、バッテリも取り外してください。

パソコンを使っていたら

●画面上のトラブル

Q8

いきなり画面が消えた

A

- **スタンバイに入った可能性があります。**
  電源スイッチを押してください。

- **休止状態になった可能性があります。**
  電源スイッチを押してください。

- **ACアダプタのプラグが電源コンセントから外れていませんか？**
  コンセントまたはプラグを差し込みなおしてください。

- **スタンバイまたは休止状態に入った可能性があります。**
  電源スイッチを押してください。

- **バッテリの容量切れの可能性があります。**
  バッテリを十分に充電してから、接続してください。

Q9

表示される日付や時刻が正しくない

A

- **日付や時刻が間違った設定になっていませんか？**
  Windowsのタスクバーの時刻をダブルクリックして「日付と時刻のプロパティ」を起動します。【日付と時刻のプロパティ】ダイアログで正しい日付や時刻を設定してください。

Q10

日付の設定を変更しても元に戻ってしまう

A

- **電池容量切れになっている可能性があります。**
  日付設定などのバックアップ電源として内蔵電池を使用しています。この内蔵電池が容量不足になると、日付設定などのデータ保持ができなくなります。
  電池は消耗品ですので、寿命があります。寿命についてはお客様のご使用状況により大きく異なりますが、平均2～3年です。

ディスプレイのトラブル

Q11

画面表示がブレてしまう

A

・**液晶ディスプレイの場合、使用前にパソコンとのチューニング(ディスプレイ設定「OSDメニュー」内の「AutoTune」)をして、位相を調整しないと画面表示がブレるなどの症状が起こることがあります。**

本来はCRT(液晶ではない通常のディスプレイ)でも調整が必要ですが、CRTは液晶と出力形式の違いから、画面全体が微妙にズレるなど、液晶ディスプレイとは違った症状で現れるため、視覚的には気になりません。
「AUTO TUNE(自動調整)」の項目を選択すると、2~5秒後に自動的にサイズとポジション、位相などを調整します。

Q12

画面表示にムラがある

A

・**ディスプレイを見やすい角度に調整してください。**

液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。

Q13

Windows Media Playerを使うとき、横長の液晶ディスプレイで全画面表示で再生すると上下が欠ける

A

(この現象は、Microsoft社にて確認されている不具合です。)

・**上下が欠けない状態で、全画面表示で再生する場合は、Windows Media Player 6.4 を使用してください。**

1024 x 480 などの横長の液晶ディスプレイで動画を全画面表示で再生すると、上下が欠けて表示されます。これはWindows Media Player 7 の仕様になります。

Q14

液晶ディスプレイの映り込みが気になる

A

・**液晶ディスプレイから保護シートを取り外してご使用ください。動作に影響しません。**

マウスやキーボードのトラブル

Q15

マウスポインタが動作しない

A

・**接続ケーブルが外れていませんか?**

接続ケーブルを正しく接続してください。それでも動かない場合は、本機を再起動してください。

・**本機の電源をONにした後にマウスを接続していませんか?**

マウスを接続後、再起動してください。

・**適正なマウスドライバを使用していますか?**

付属のマウス以外を使用する場合は、専用のマウスドライバが必要なものがあります。使用するマウスに付属のマウスドライバを正しくインストールしてください。

Q16

キー入力中に突然カーソルが別の場所に移動してしまう

A

・**タッチパッドの表面付近では、小さな反動でもカーソルが移動してしまうことがあります。**

親指がタッチパッドの表面付近にあるときなど、タッチパッドの表面のタッピング機能が反応することがあります。

Q17

タッチパッドを使用したとき、マウスカーソルの動きが悪いことがある

A

・**タッチパッドの表面が埃や汗などによって汚れていると、このような現象が発生することがあります。**

清潔な布などで、タッチパッドの表面の汚れをふき取ってからご使用ください。

Q18

押したキーと違う文字が表示される

A

・**CapsLock、ひらがな/カタカナなどが間違って押されていませんか？**

目的の文字がタイプされるようにCapsLock、ひらがな/カタカナキーを押してください。

・**キーボードのドライバは適正なものですか？**

キーボードのドライバがお使いのキーボードに対応したものではない可能性があります。キーボードのドライバを更新してください。

Q19

デバイスマネージャ上で日本語106(109)キーボードが、英語101(102)キーボードと表示されてしまう

A

・**この現象は、Windows XPのシステムがプラグアンドプレイでキーボードを認識する際に、英語101/102キーボードが指定されているために発生します。**

回避策として、次の方法を試してください。デバイスマネージャから、次の手順で日本語106/109キーボードに変更します。

①[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[システム]アイコンを選択して、[ハードウェア]タブをクリックします。
②[デバイスマネージャ]ボタンをクリックして【デバイスマネージャ】ウィンドウを開きます。「キーボード」にある英語101/102キーボードをダブルクリックします。
③[ドライバ]タブを選択し[ドライバの更新]ボタンをクリックします。
④「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」をチェックして、[次へ]ボタンをクリックしてください。
⑤「検索しないで、インストールするドライバを選択する」をチェックして、[次へ]ボタンをクリックしてください。
⑥「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外してください。
⑦「モデル」欄から「日本語 PS/2キーボード(106/109キー)」を選択して、[次へ]ボタンをクリックしてください。
⑧[はい]ボタンをクリックしてドライバを更新し、パソコンを再起動してください。

パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリー)

WinBookをご購入時の状態に戻す(リカバリー)方法や、リカバリー前に行うデータや設定のバックアップについて説明しています。

リカバリーの流れ

次の手順で操作してください。

ステップ1　リカバリーの準備をする

リカバリーを実行すると、ハードディスクの情報が消去されます。
必要なデータをフロッピーディスク、またはCD-R/RWディスクなどに保存してください。

ステップ2　リカバリーを実行する

パソコンの電源をONにして、イジェクトボタンを押し、「リカバリCD-ROM」を光ディスクドライブに入れます。
機種によっては、光ディスクドライブがない場合があります。ドライブがない場合は、弊社推奨の光ディスクドライブを用意する必要があります。

ステップ3　パソコンの環境を元に戻す

リカバリー実行後は、パソコンを以前使用していた環境に戻す作業が必要です。
また、バックアップをとったデータを元に戻してください。

リカバリーの準備をする

使用していたデータや設定内容をバックアップして、リカバリー後に同じ環境で使えるようにします。

ファイルのバックアップ

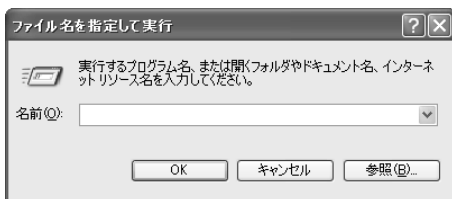
リカバリーを実行すると、ご購入後にお客様が作成・追加したデータは全て消去され、製品出荷時の状態に戻ります。お客様が作成・追加したデータは、外部記憶メディア(フロッピーディスク、CD-R/RWなど)に保存してください。

Internet Explorerの『お気に入り』のバックアップ

Internet Explorerの『お気に入り』は｢C:￥Documents and Settings￥＊＊＊＊￥Favorites｣フォルダ内に格納されています(＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります)。次の手順に従って、バックアップをとってください。

1 **[スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]を選択します。**

【ファイル名を指定して実行】画面が表示されます。

ファイル名を指定して実行
実行するプログラム名、または開くフォルダやドキュメント名、インターネット リソース名を入力してください。
名前(O):
OK　キャンセル　参照(B)...

2 **｢C:￥Documents and Settings￥＊＊＊＊￥Favorites｣を入力し、[OK]ボタンをクリックします(＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります)。**

【お気に入り】画面が表示されます。

3 **【お気に入り】画面内にある、全てのフォルダとファイルを、外部記憶メディアに保存します。**

以上でInternet Explorerの『お気に入り』のバックアップ作成は完了です。

Outlook Express 6のバックアップ

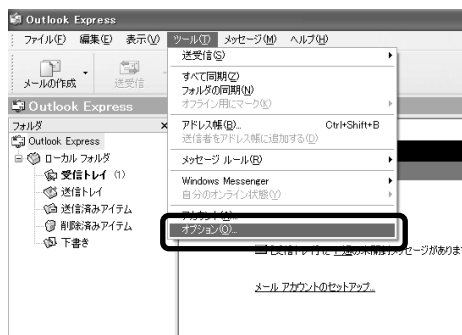
Outlook Express 6のバックアップは、メール、アカウント、アドレス帳に分けてバックアップを取ります。

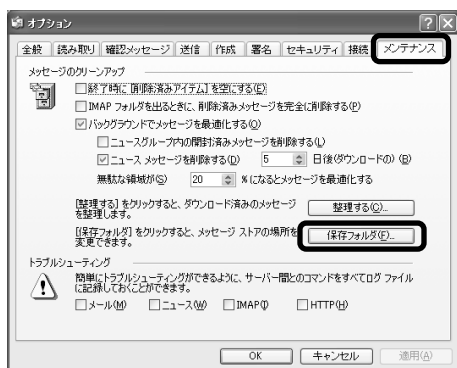
●メールのバックアップ

Outlook Express 6のメールのバックアップは次の手順に従って操作してください。

1 **Outlook Expressを起動します。**

【ファイル名を指定して実行】画面が表示されます。

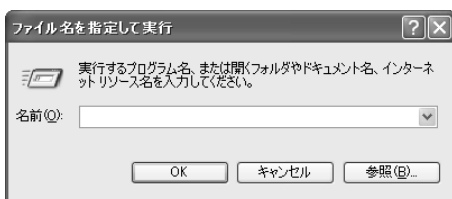
複数のユーザーでOutlook Expressを使用している場合は、バックアップをとりたいユーザーのアカウントを選択(ログイン)します。

2 **[ツール]メニューより[オプション]を選択します。**

【オプション】画面が表示されます。

3 **[メンテナンス]タブをクリックし、[保存フォルダ]ボタンをクリックします。**

【保存場所】画面が表示されます。

4 **【保存場所】画面に表示されている保存場所のアドレスをメモします。**

5 **[スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]を選択します。**

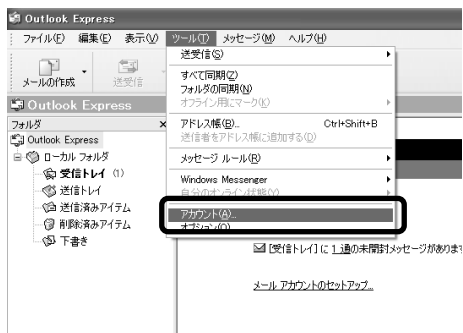
【ファイル名を指定して実行】画面が表示されます。

6 **手順4でメモした内容を入力し、[OK]ボタンをクリックします。**

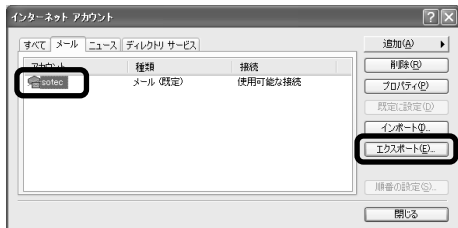
画面が表示されます。

7 **表示されているファイルの中から、拡張子が「＊.dbx」になっているファイルを全て、外部記憶メディアに保存します。**

以上でメールのバックアップ作成は完了です。

メールアカウントのバックアップ

Outlook Express 6のメールアカウントのバックアップは次の手順に従って操作してください。

1 **Outlook Expressを起動した状態で、[ツール]メニューより[アカウント]を選択します。**

【インターネットアカウント】画面が表示されます。

2 **[メール]タブをクリックし、表示されるアカウントの一覧からバックアップをとりたいアカウントを選択し、[エクスポート]ボタンをクリックします。**

【インターネットアカウントのエクスポート】画面が表示されます。

3 **任意でファイル名と保存場所を設定して、[保存]ボタンをクリックします。**

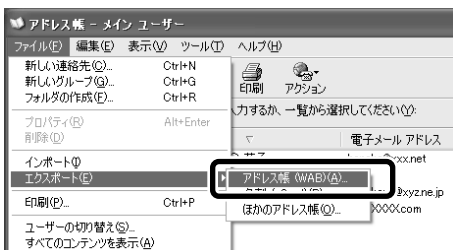
【インターネットアカウント】画面に戻ります。

以上でメールアカウントのバックアップ作成は完了です。

●アドレス帳のバックアップ

Outlook Expressのアドレス帳のデータをバックアップします。

1 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[アドレス帳]の順に選択します。**

「アドレス帳」が起動します。

2 **[ファイル]→[エクスポート]→[アドレス帳]の順に選択します。**

【エクスポートするアドレス帳ファイルの選択】ダイアログが表示されます。

3 **任意でファイル名と外部記憶メディアの保存場所を設定して、[保存]ボタンをクリックします。**

【インターネットアカウント】画面に戻ります。

保存が完了したことを知らせるダイアログが表示されます。

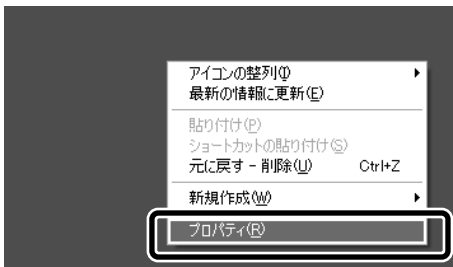
4 **[OK]ボタンをクリックします。**

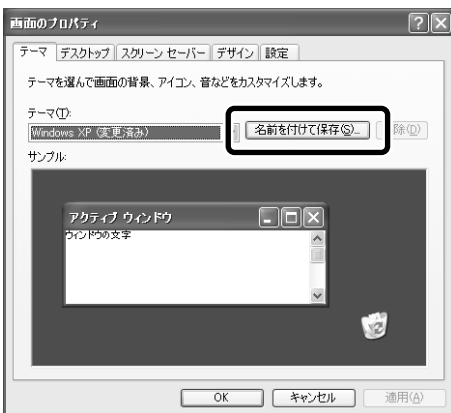
以上でアドレス帳のバックアップ作成は完了です。

STEP5 パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリー)

デスクトップ画面設定のバックアップ

現在使用しているデスクトップ画面の設定をバックアップします。

お客様が作成した画像を壁紙で使用している場合は、別途で画像ファイルのバックアップを取ってください。

1 **デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。**

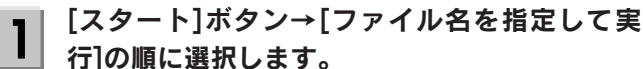
【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。

2 **[名前を付けて保存]ボタンをクリックします。**

【名前を付けて保存】ダイアログが表示されます。

3 **任意でファイル名と外部記憶メディアの保存場所を設定して、[保存]ボタンをクリックします。**

以上でデスクトップ画面設定のバックアップ作成は完了です。

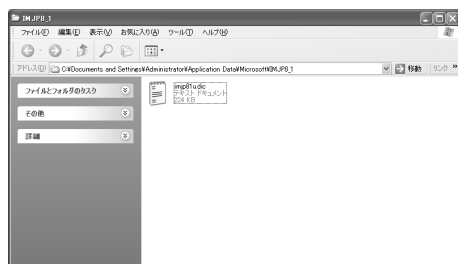
ユーザー辞書のバックアップ

現在使用しているユーザー辞書をバックアップします。

1 **[スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]の順に選択します。**

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。

2 **[C:¥Documents and Settings¥＊＊＊＊¥Application Data¥Microsoft¥IMJP8_1]を入力して、[OK]ボタンをクリックします。**
(＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります)

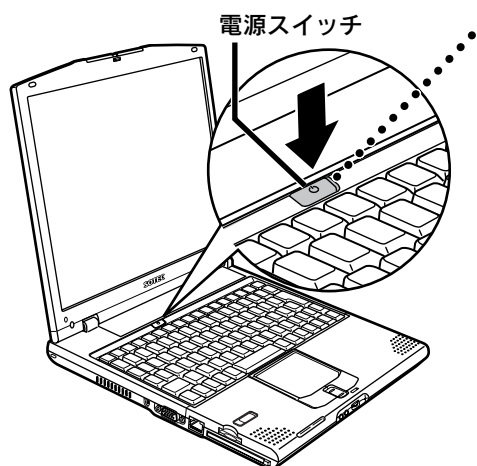
【IMJP8_1】ウィンドウが表示されます。

ユーザー辞書を他の任意のフォルダへ保存している場合は、任意のフォルダを開きます。

3 **[imjp81u]ファイルを、異なる任意のファイル名で外部記憶メディアに保存します。**

以上でユーザー辞書のバックアップ作成は完了です。

ファイル名は必ず変更してください。

3 リカバリーを実行する

リカバリーの実行は、「リカバリCD-ROM」を使用します。

1 **本機の電源をONにして、"SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、F2キーを押します。**

しばらくすると、セットアッププログラムの起動画面が表示されます。

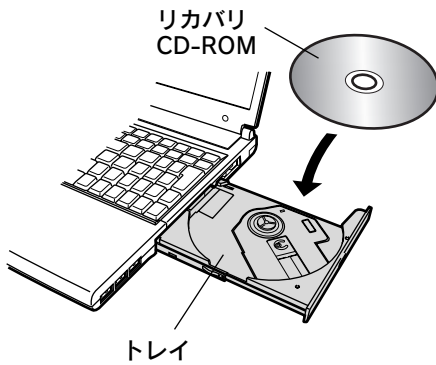
・リカバリーを実行するときは、プリンタやその他の周辺機器は接続しないでください。OSの設定時にマニュアルと異なる手順になる可能性があります。
・リカバリーを実行するときは、必ずACアダプタを使用して、電源コンセントから電源を確保してください。

2 **[Auto Configuration with Optimal Settings]にカーソルをあわせてEnterキーを押します。**

3 **F10キーを押します。**

[Save current setting and exit(Y/N)?Y]と表示されます。

4 **Enterキーを押します。**

BIOSが初期化されます。このあと、Windowsが起動するのを待ち、起動が完了したら次の手順に進みます。

5 **イジェクトボタンを押して「リカバリCD-ROM」を光ディスクドライブに挿入します。**

書き込み可能な光ディスクドライブを装備しているモデルは、事前にリカバリCD-ROMを作成する必要があります。
リカバリCD-ROMの作成は、「はじめにお読みください」から「リカバリCD-ROM作成手順」をご参照ください。

6 **[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。**

7 **[再起動]ボタンをクリックします。**

パソコンが再起動します。しばらくすると画面にリカバリー・プログラムのメニュー画面が表示されます。

ハードディスクの復元について

リカバリーＣＤを使用してハードディスクの内容を復元しますと、
お客様が本製品をセットアップする前の状態になります。
（一部インストールされないアプリケーションがある場合があります）

また、復元時には、お客様がご購入後にインストールされましたアプリケーションやハードディスクに保管されているデータ等はすべて消えてしまいますので、お手数ですが各種データは事前にバックアップ作業を行った後ハードディスクの復元を行う事をお勧めします。

復元を行う場合は ………………………… ［Ｙ］キーを押してください

データを保存する為、中断する場合は ………… ［Ｎ］キーを押してください

SOTEC

8 **Yキーを押します。**

【復元方法の選択】の画面が表示されます。

復元方法の選択

ハードディスクの復元方法を選択してください。

1．一般的な方法で復元を行う場合 …………………… [1] キーを押してください
通常は、この方法を選択してください。Cドライブのみ復元を行います。

2．高度なオプションを選択して復元を行う場合 … [2] キーを押してください
ハードディスクを分割しての復元や、ハードディスク全体を１つにして
復元を行います。（すべての内容が消去されます）

← 復元を中止する場合 ………………………… [N] キーを押してください

SOTEC

9 復元方法を選択します。

一般的な方法で復元を行いたい場合
1キーを押します。 **→手順10へ**

高度なオプションを選択して復元を行いたい場合
2キーを押します。 **→手順11へ**

復元を中止する場合
Nキーを押します。
→キャンセルのメッセージが表示されるので、リカバリCD-ROMを取り出し、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

復元方法として、2種類の復元方法を用意しています。
「高度なオプションを選択して復元を行う場合」を選択した場合、ハードディスクの構成を変更する必要があるため、全てのデータが消えてしまいます（復旧することはできません）。
通常は「一般的な方法で復元を行う場合」を選択することをお勧めします。この場合、Cドライブのみ消去します。

復元の開始（一般）

この方法では、複数のパーティションが存在するハードディスクの
Cドライブにリカバリーを行います。

注意！
リカバリーの操作を開始すると、Cドライブの内容は消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

→ リカバリーを開始する場合 ………… [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してください

← リカバリーを中止する場合 ………… [N] キーを押してください

SOTEC

10 リカバリーを実行します。（一般的な復元方法を選択した場合）

リカバリーを開始する場合
Ctrlキーを押しながらSキーを押します。
→手順15へ

リカバリーを中止する場合
Nキーを押します。
→キャンセルのメッセージが表示されるので、リカバリCD-ROMを取り出し、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

復元方法の選択(2)

復元のオプションを選択してください。
注意！重要なデータは作業を行う前にバックアップを行ってください。

1．８ＧＢをＣドライブ、
残りをＤドライブに使用する場合 ……… ［１］キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは２分割されます。

2．全体の半分をＣドライブ、
残りをＤドライブに使用する場合 ……… ［２］キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは２分割されます。

3．全体をＣドライブとして使用する場合 … ［３］キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは１つになります。

← 戻る ……………………………… ［Ｎ］キーを押してください

SOTEC

11 復元のオプションを選択します。(高度な復元方法を選択した場合)

「高度なオプションを選択して復元を行う場合」を選択した場合、ハードディスク構成を変更する必要があるため、全てのデータが消えてしまいます。
復旧することはできないので、あらかじめデータのバックアップをとりましょう。

8GBをCドライブ、残りをDドライブにして復元する場合
1キーを押します。
→ハードディスクの内容すべてが消去され、ハードディスクが2つに分かれます。
→手順12へ

全体の半分をCドライブ、残りをDドライブにして復元する場合
2キーを押します。
→ハードディスクの内容すべてが消去され、ハードディスクが2つに分かれます。
→手順13へ

全体をCドライブにして復元する場合
3キーを押します。
→ハードディスクの内容すべてが消去され、ハードディスクが1つになります。
→手順14へ

前のメニューに戻る場合
Nキーを押します。

復元の開始

この方法では８ＧＢをＣドライブ、残りをＤドライブとして
リカバリーを行ないます。

注意！
リカバリーの操作を開始すると、ハードディスクの内容はすべて消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

→ リカバリーを開始する場合 ………… [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してください

← リカバリーを中止する場合 ………… [N] キーを押してください

SOTEC

12 リカバリーを実行します。(8GBをCドライブ、残りをDドライブにして復元)

リカバリーを開始する場合

Ctrlキーを押しながらSキーを押します。

→手順15へ

リカバリーを中止する場合

Nキーを押します。

→キャンセルのメッセージが表示されるので、リカバリCD-ROMを取り出し、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

復元の開始

この方法では全体の半分をＣドライブ、残りをＤドライブとして
リカバリーを行ないます。

注意！
リカバリーの操作を開始すると、ハードディスクの内容はすべて消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

→ リカバリーを開始する場合 ………… [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してください

← リカバリーを中止する場合 ………… [N] キーを押してください

SOTEC

13 リカバリーを実行します。(全体の半分をCドライブ、残りをDドライブにして復元)

リカバリーを開始する場合

Ctrlキーを押しながらSキーを押します。

→手順15へ

リカバリーを中止する場合

Nキーを押します。

→キャンセルのメッセージが表示されるので、リカバリCD-ROMを取り出し、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

復元の開始

この方法では全体をＣドライブとしてリカバリーを行ないます。

注意！
リカバリーの操作を開始すると、ハードディスクの内容はすべて消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

→ リカバリーを開始する場合 ………… [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してください

← リカバリーを中止する場合 ………… [N] キーを押してください

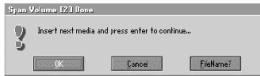
SOTEC

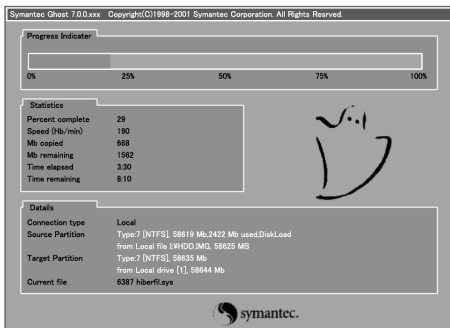
14 リカバリーを実行します。(全体をCドライブにして復元)

リカバリーを開始する場合

Ctrlキーを押しながらSキーを押します。

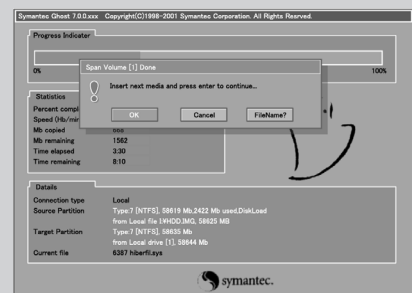
→手順15へ

リカバリーを中止する場合

Nキーを押します。

→キャンセルのメッセージが表示されるので、リカバリCD-ROMを取り出し、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

15 【リカバリーについての補足説明】の画面が表示されるので、何かキーを押します。

リカバリーが開始されます。

16 復元が完了すると、左の画面が表示されるので、リカバリCD-ROMを取り出します。

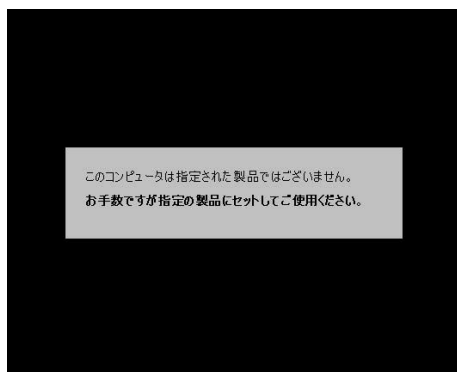
チェック　リカバリCD-ROMが複数ある場合は・・・

リカバリCD-ROMが複数あるモデルでは、リカバリーの途中で、「Insert next media and enter to continue...」というメッセージが表示されます。
メッセージが表示されたら、リカバリCD-ROMを交換し、Enterキーを押してください。

17 **Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押します。**

パソコンが再起動します。パソコンの再起動後、Windows XPのセットアップが始まります。「ユーザーズガイド」を参照して、セットアップを完了させてください。

リカバリー時のエラーメッセージとその対処法

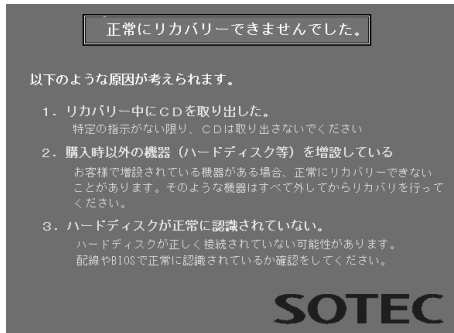
ここでは、リカバリー時に画面に表示されるエラーメッセージと、その対処法を説明します。

■「このコンピュータは指定された製品ではございません。お手数ですが指定の製品にセットしてご使用ください。」

このエラーメッセージが表示された場合、次の原因が考えられます。

□リカバリーを行うパソコン専用のリカバリCD-ROMを使用していない。

□リカバリCD-ROMを指定されていないパソコンに使用した。

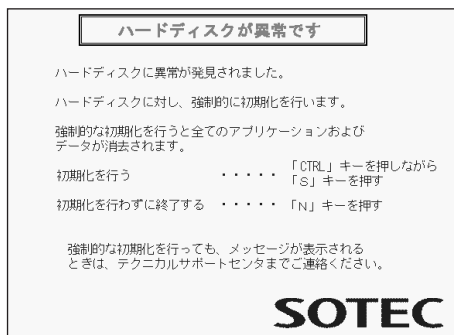
→正しいリカバリCD-ROMがセットされているかご確認ください。

■「正常にリカバリーできませんでした。」

このエラーメッセージが表示された場合、次の原因が考えられます。

□リカバリー中にリカバリCD-ROMを取り出した。
　→リカバリー手順1（☞98ページ）に戻り、再度リカバリーしてください。

□製品購入後、機器(ハードディスク)を増設している。
　→製品購入後に機器を増設した場合、正常にリカバリーできないことがあります。増設機器をすべて取り外してから、手順1（☞98ページ）に戻り、再度リカバリーしてください。

□ハードディスクが正常に認識されない。
　→ハードディスクの配線や、BIOSで正常に認識されているかをご確認ください。

■「ハードディスクが異常です」

このエラーメッセージが表示された場合、次の原因が考えられます。

□ハードディスクの一部に異常がある。
　→ハードディスクの初期化を行う必要があります。Ctrlキーを押しながらSキーを押して、リカバリーを行ってください。
　データのバックアップをとっていない場合は、Nキーを押してください。キャンセルのメッセージが表示されるので、リカバリCD-ROMを取り出し、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押して、パソコンを再起動します。

パソコンの環境を元に戻す

リカバリー終了後、パソコンの環境をリカバリー前に使用していた状態に戻します。

パソコンの環境設定

パソコンの環境設定を行います。「ユーザーズガイド」などをご参照ください。

製品購入後にインストールした アプリケーションソフトの設定

製品購入後にインストールしたアプリケーションソフトは、別途インストールする必要があります。インストールについての詳細は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照するか、アプリケーションソフトのメーカにお問い合わせください。

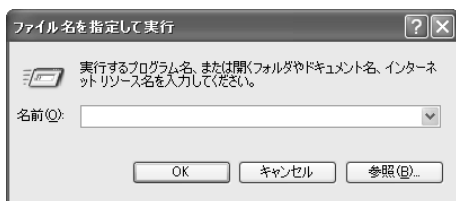
バックアップしたファイルを元に戻す

91ページでバックアップをとったデータを元に戻します。
外部記録メディアにバックアップをとったデータは、バックアップ前と同じ場所に戻してください。

Internet Explorerの『お気に入り』を元に戻す

バックアップをとったInternet Explorerの『お気に入り』は、「C:￥Documents and Settings￥＊＊＊＊￥Favorites」フォルダ内に格納されています(＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります)。

1 **[スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]を選択します。**

【ファイル名を指定して実行】画面が表示されます。

2 **「C:¥Documents and Settings¥＊＊＊＊¥Favorites」を入力し(＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります)、[OK]ボタンをクリックします。**

【お気に入り】画面が表示されます。
以上でInternet Explorerの『お気に入り』のバックアップの読み込みは完了です。

3 **外部記憶メディアからバックアップをとったフォルダやファイルを、【お気に入り】画面内へコピーします。**

Outlook Express 6を元に戻す

メール、アカウント、アドレス帳のバックアップを元に戻します。

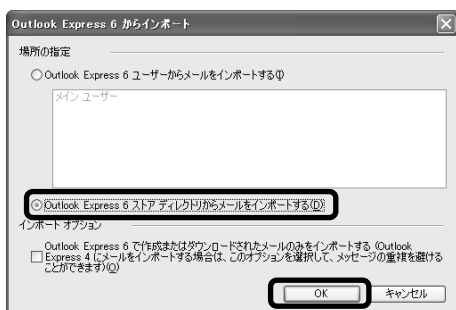
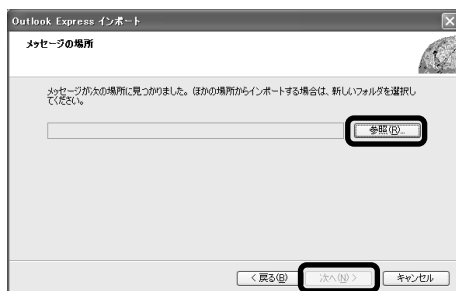
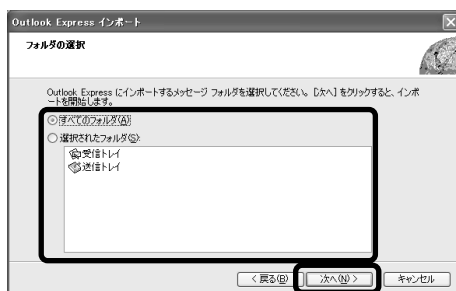
●メールのバックアップを読み込む

バックアップをとったOutlook Express 6のメールを読み込むには、次の手順に従って操作してください。

1 **Outlook Expressを起動した状態で、[ファイル]メニューから[インポート]→[メッセージ]の順に選択します。**

【Outlook Express インポート】の画面が表示されます。

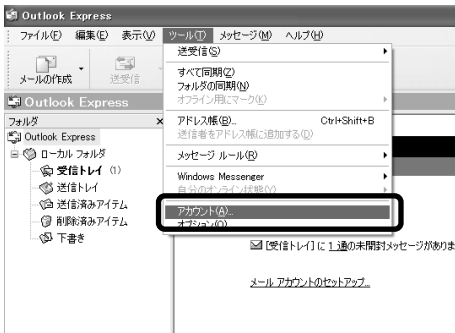
2 **一覧より、[Microsoft Outlook Express 6]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。**

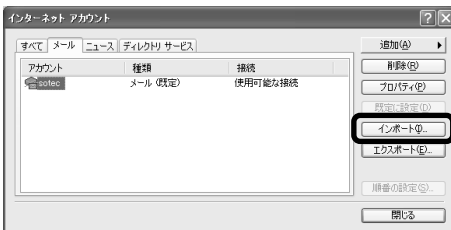
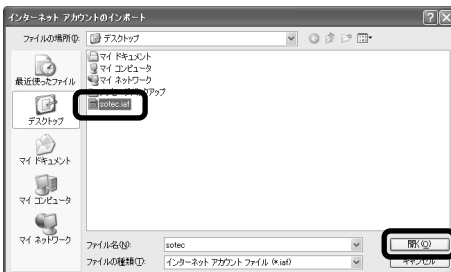
【Outlook Express 6からインポート】の画面が表示されます。

3 「Outlook Express 6ストアディレクトリからメールをインポートする」にチェックを入れて、[OK]ボタンをクリックします。

4 [参照]ボタンをクリックして、バックアップをとったデータの場所を指定して、[次へ]ボタンをクリックします。

5 「すべてのフォルダ」をチェックするか、「選択されたフォルダ」をチェックし、読み込ませたいフォルダを選択して[次へ]ボタンをクリックします。

6 [完了]ボタンをクリックします。

以上でバックアップの読み込みは完了です。

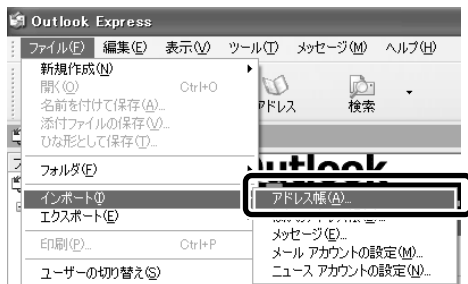
●メールアカウントのバックアップを読み込む

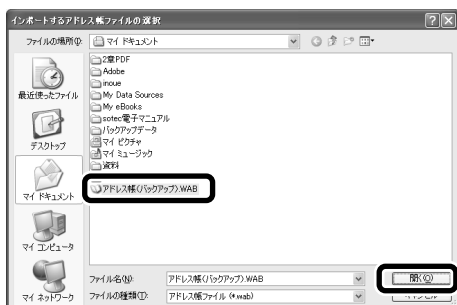
バックアップをとったOutlook Express 6のメールアカウントを読み込むには、次の手順に従って操作してください。

1 **Outlook Expressを起動した状態で、[ツール]メニューから[アカウント]を選択します。**

【インターネットアカウント】画面が表示されます。

2 **[インポート]ボタンをクリックします。**

3 **バックアップをとったiafファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。**

以上でメールアカウントのバックアップの読み込みは完了です。

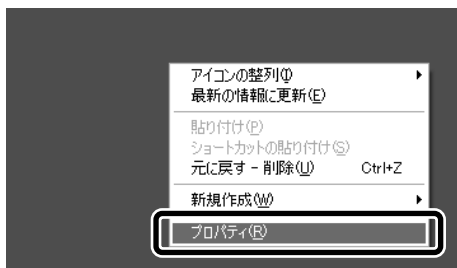
アドレス帳のバックアップを元に戻す

バックアップをとったOutlook Express 6のアドレス帳を元に戻します。

1 **Outlook Express 6を起動した状態で、[ファイル]メニューから[インポート]→[アドレス帳]の順に選択します。**

【インポートするアドレス帳ファイルの選択】ダイアログが表示されます。

2 **バックアップをとったアドレス帳ファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックします。**

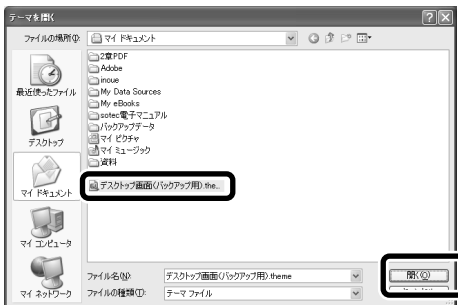
以上でアドレス帳のバックアップの読み込みは完了です。

デスクトップの画面設定を元に戻す

バックアップをとったデスクトップ画面設定を元に戻します。

1 **デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。**

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。

2 **[テーマ]の をクリックして、表示される一覧から[参照]を選択します。**

【テーマを開く】ダイアログが表示されます。

3 **バックアップをとったデスクトップの画面設定ファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックします。**

以上でデスクトップの画面設定のバックアップの読み込みは完了です。

ユーザー辞書を元に戻す

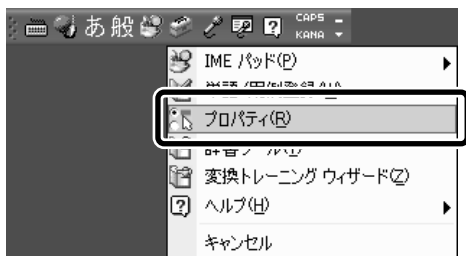
バックアップをとったユーザー辞書を元に戻します。

1 **[スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]の順に選択します。**

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。

2 **[C:¥Documents and Settings¥＊＊＊＊¥Application Data¥Microsoft¥IMJP8_1]を入力して、[OK]ボタンをクリックします。**
(＊＊＊＊にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります)

【IMJP8_1】ウィンドウが表示されます。

3 **バックアップをとったユーザー辞書ファイルを、【IMJP8_1】ウィンドウ内に移動します。**

4 **IME2002のツールバーから　をクリックして、表示されるメニューから[プロパティ]を選択します。**

【Microsoft IME スタンダードのプロパティ】ダイアログが表示されます。

5 **[参照]ボタンをクリックします。**

【ユーザー辞書の設定】ダイアログが表示されます。

6 **バックアップをとったユーザー辞書ファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックします。**

以上でデスクトップのユーザー辞書のバックアップの読み込みは完了です。

付録

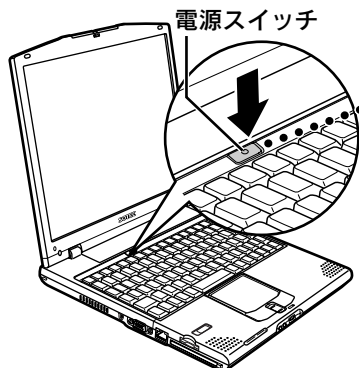
BIOSを設定する

ここではBIOSの概要と、BIOSを設定するための「BIOSセットアッププログラム」の操作方法について説明します。

BIOSとは

"BIOS"とは「Basic Input Output System」の略称で、具体的にパソコンを動作させるためのプログラムです。
このBIOSの設定を正しく行うことで、パソコンの性能を正しく引き出すことができます。
本機ではあらかじめ、最適の状態でBIOSが設定されています。ただし、本機の拡張などを行った際には、拡張する機器に合わせてBIOSの設定を変更する必要があります。

BIOSの設定は複雑で、誤った設定をしてしまうと、本機が正常に動かなくなる恐れがあります。特に理由もなくBIOSの設定を変更しないでください。
誤った設定により本機が正しく動作しなくなった場合には、BIOSセットアップ画面で[Auto Configuration with Optimal Settings]を選択します。BIOSの設定を初期設定に戻すメッセージが表示されるので Y キーを押してから Enter キーを押してください。BIOSの設定が初期状態に戻り、Windowsが再起動されます。

BIOSセットアッププログラムの起動方法

1 本機の電源がOFFであることを確認した後、本機の電源スイッチを押して、電源をONにします。

2 "SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、F2 キーを押します。

しばらくすると、セットアッププログラムの起動画面が表示されます。

BIOSの詳しい操作方法についてはWindowsのデスクトップ画面から[スタート]ボタン→[必ずお読みください]→[BIOSマニュアル]をご参照ください。

項目の選択・設定の方法

BIOSセットアッププログラムは、次のキーを使って操作します。

・メインメニューの項目を左右に移動するには　←→キー
・項目を上下に移動するには　↑↓キー
・サブメニューへ移動するには　Enterキー
・ヘルプを見るには　F1キー
・変更した設定を保存するには　F10キー
・サブメニュー・メニューを終了するには　Escキー
・設定値を変更するには　PageUp PageDownキー

BIOSセットアッププログラムの終了

設定した内容を保存して終了する

① F10キーを押すか、[Save Settings and Exit]にカーソルをあわせEnterキーを押します。

② [Save current setting and exit(Y/N)?Y]とメッセージが表示されるので、Yキーを押してからEnterキーを押すと、変更した設定値を保存して終了します。

設定した内容を保存せずに終了する

① [EXIT Without Saving]にカーソルをあわせてEnterキーを押します。

② [Quit Without Saving(Y/N)？N]とメッセージが表示されるので、Yキーを押してからEnterキーを押すと、変更した設定の保存を行わずに終了します。

BIOSセットアッププログラムのメニュー構成

BIOSセットアッププログラムは9種類のメニューから構成され、それぞれのメニューで設定できる内容は次のようになっています。

メニュー	内　容
Standard CMOS Features	内部のシステムクロック(時分秒)やカレンダー(年月日)などの設定をします。
Advanced BIOS Features	起動時の各種設定ができます。
Power Management Setup	省電力モードで本機を動作させるなど、電源管理の設定をします。
Auto-Detect Hard Disks	搭載されているIDEの情報を自動的に取得し表示します。
Change User Passwordp	ユーザのパスワードを設定します。（※1）
Change Supervisor Password	システム管理者のパスワードを設定します。(※1)
Auto Configuration with Optimal Settings	BIOSのすべての項目を、工場出荷状態の最適状態に設定します。
Save Settings and Exit	設定した内容を保存して終了する場合に選択します。
Exit Without Saving	保存せずに終了する場合に選択します。

※1:パスワードを忘れた場合は、修理サポートセンタに本機を預けていただきます。(有償)

2 廃棄について

パソコンの廃棄は、法律や各自治体の条例などにより、廃棄方法が定められています。本製品を廃棄する前にご参照ください。

本製品の廃棄について

本製品は、個人使用か事業使用で、廃棄方法が異なります。

事業系使用済みパソコンの回収・再資源化業務について

ソーテックは、2001年4月1日より事業系(法人ユーザー)の使用済みパソコンの回収及び再資源化業務を開始致しております。
本件は、2001年4月より施行された「資源の有効な利用の促進に関する法律(改正リサイクル法)」に基づき、3月28日に公布された省令「パーソナルコンピュータの製造等の事業を行う者の使用済みパソコンの自主回収及び再資源化」に準拠しております。
事業系使用済みパソコンにおける回収工程から、再生・再資源化及び処分工程までの全工程を遂行しております。回収・リサイクルの流れは次の通りです。

1 事業系のお客様から、リサイクル専用コールセンタにて受付
2.全国ネットワークの回収デポにて製品を回収
3.リサイクルセンタへ運搬
4.リサイクルセンタ及び指定業者にて再生・再資源化

なお、料金体系や周辺機器などの個別条件につきましても、下記の電話番号にてご案内しております。

リサイクル専用コールセンタ

TEL　03-5493-3756

9:00～17:00(月～金)
(弊社指定休業日はお休みさせていただきます)

この電話番号は、リサイクル専用です。
製品に関するサポートには対応しておりません。

個人でパソコンを所有している場合

廃棄方法に関しましては、お住まいの各自治体にお問い合せください(2003年4月現在)。

●廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記録装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

従って、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合に、一般に
- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトで初期化(フォーマット)する
- リカバリCDを使い、工場出荷状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されただけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理が出来なくなっただけで、本来のデータは残っているという状態なのです。

従いまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されることがあります。

パソコンユーザが破棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要になります。消去するためには、専用のソフトウェアあるいはサービス(共に有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

●不要になったバッテリパックの取り扱いについて

不要になったバッテリパックは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店にお持ち込みください。返却される際は、ショートによる発煙・発火防止のため、端子にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

3 索　引

©2003 株式会社ソーテック
WinBook WLシリーズ　ユーザーズガイド
2003年4月初版